

大人向け国語ドリル

気づく・ほどく・間に置く・育てる

読む・考える・伝えるための二十四の稽古

和会塾

はじめに

私たちは、日々の多くを言葉で受け取り、言葉で渡しています。短い返事に引っかかる日もあれば、うまく説明できないまま、何となく分かった気で通り過ぎる日もあります。

このドリルは、学校で学んだ国語をもう一度なぞるためだけのものでも、便利な言い回しを覚えるためだけのものでもありません。読むこと、考えること、伝えることを通して、自分が何を受け取り、どのような言葉を相手との間へ置くのかを、少しずつ確かめるための教材です。

二十四回の題材は、昼食を決める会話、短いメッセージ、依頼や断り、物や場所の描写、短い文章づくりへと広がります。明確な正答を確かめる問いもあれば、いくつかの答えが成立する問いもあります。

目指すのは、自分を完全に説明できることではありません。必要なところに言葉を置き、まだ形にならないものは急いで閉じず、あとから選び直せること。そのための静かな稽古として、この一冊を使ってください。

このドリルで大切にすること

書かれていることと、受け取ったことの間を見る

文章や会話に実際に示されたことと、読み手が補って受け取ったことを分けてみます。受け取りを否定するのではなく、どこから先が解釈なのかを確かめます。

正答のある問いと、開かれた問いを分ける

内容、論理、語句の働きには、本文から確かめられる答えがあります。一方、題名、表現、想像、自己との接続には、複数の答えが成立します。

自分や他者を、一つの見方に閉じ込めない

別の見方を考えても、最初にしたことを取り消す必要はありません。また、短い言葉から相手の内面を一つに決めることも避けます。

言葉にならないものを、急いでまとめない

語彙が足りないとき、いくつかの感じが混ざっているとき、時間が必要なときがあります。「まだ分からない」「今は書かない」も有効な応答です。

このドリルの使い方

すべてを埋めなくてよい

空欄を残してもかまいません。一回を途中まで行い、別の日に戻る使い方もできます。

自分との距離を選ぶ

自分の経験を書かず、文章や登場人物について考えてもかまいません。架空の場面や、物・色・音だけを書く選択もあります。

問いの性質を確かめる

一つの正答がある問題と、複数の答えが成立する問題があります。自由記述では、解答例と同じ言葉にそろえる必要はありません。

解答は、別の見方に出会うためにも読む

採点だけでなく、なぜその読みが成立するのか、どこから先が推測なのかを確かめます。最初の答えを消さず、見方の動きを残してください。

飛ばす・保留する

苦しくなった課題は飛ばしてかまいません。言葉にならないものを、無理に一語や結論へまとめる必要もありません。

この教材は、心の状態を診断したり、治療したりするものではなく、心理療法や医療の代替ではありません。取り組む範囲と距離は、その日の自分に合わせて選んでください。

三種類の回

小さな稽古

一つの言葉や区別を、短く軽やかに考える回です。日常の小さな曖昧さや矛盾から、言葉の中身へ近づきます。

標準の回

読む・考える・伝えるを、無理のない分量でバランスよく扱う回です。明確に読めることから、余韻や複数の解釈へ進みます。

立ち止まる回

一つの場면을複数の角度から丁寧に考える回です。事実と推測、感情と評価、言葉の順序や距離などを深く扱います。

三種類は、初級・中級・上級という難度区分ではありません。短い回にも細かな区別があり、立ち止まる回も平易な会話から始まります。分量と学び方の呼吸が異なる、と考えてください。

四つの部をたどる道筋

気づく → ほどく → 間に置く → 育てる

第一部 気づく

普段は何気なく使っている言葉や、見過ごしている表現に立ち止まり、日常を少し面白く見る入口をつくります。

第二部 ほどく

出来事と受け取りの間を見て、感じたことを残しながら、確かなことと複数の見方を確かめます。

第三部 間に置く

便利な定型文を覚えるだけでなく、相手との間へ言葉を置く順序、時機、距離を考えます。

第四部 育てる

これまでの区別を用い、経験、感覚、考えに無理のない輪郭を与え、必要なら言葉を選び直します。

これは初級から上級へ進む段階ではありません。同じ言葉へ、少しずつ異なる角度から戻る螺旋です。途中の部から試し、必要な部へ戻る使い方もできます。

目次

はじめに	1
このドリルで大切にすること	2
このドリルの使い方	3
三種類の回	4
四つの部をたどる道筋	5
問題編	10
第一部 いつもの言葉に気づく	11
第一回 「何でもいい」の中身	12
第二回 「大丈夫」は、どの大丈夫？	14
第三回 その「ちゃんと」は、どれくらい？	18
第四回 どこから話せば伝わる？	20
第五回 見たことと、感じたこと	23
第六回 手が覚えていた場所	28
第二部 受け取り方をほどく	31
第七回 何が起きて、何を思ったか	32
第八回 「いつも」と言いたくなるとき	36
第九回 同じ出来事、二つの話	38
第十回 「冷たい」は気持ちだろうか	41
第十一回 短い返事が気になった	43
第十二回 違和感を急いで消さない	49

目次（続き）

第三部 人との間に言葉を置く	53
第十三回 聞いてほしい？ 意見がほしい？	54
第十四回 頼むとき、何を伝えるか	56
第十五回 断るとき、どこまで話すか	60
第十六回 「分かる」と「賛成」は同じ？	64
第十七回 正しいことを、いつ言うか	66
第十八回 異なる意見を隣に置く	71
第四部 自分の言葉を育てる	75
第十九回 思い出は、どこから始まる？	76
第二十回 「好き」の理由は、あとから見える	79
第二十一回 借りてきた言葉、自分の言葉	81
第二十二回 まだ分からないことを書く	85
第二十三回 削ると見えるもの	90
第二十四回 自分の言葉で、小さく結ぶ	92

目次（続き）

解答・考え方	97
第一部 解答・考え方	98
第一回 「何でもいい」の中身	99
第二回 「大丈夫」は、どの大丈夫？	100
第三回 その「ちゃんと」は、どれくらい？	101
第四回 どこから話せば伝わる？	102
第五回 見たことと、感じたこと	104
第六回 手が覚えていた場所	107
第二部 解答・考え方	110
第七回 何が起きて、何を思ったか	110
第八回 「いつも」と言いたくなるとき	111
第九回 同じ出来事、二つの話	112
第十回 「冷たい」は気持ちだろうか	113
第十一回 短い返事が気になった	114
第十二回 違和感を急いで消さない	117
第三部 解答・考え方	119
第十三回 聞いてほしい？ 意見がほしい？	119
第十四回 頼むとき、何を伝えるか	120
第十五回 断るとき、どこまで話すか	121
第十六回 「分かる」と「賛成」は同じ？	123
第十七回 正しいことを、いつ言うか	123
第十八回 異なる意見を隣に置く	126
第四部 解答・考え方	129
第十九回 思い出は、どこから始まる？	129

第二十回 「好き」の理由は、あとから見える	130
第二十一回 借りてきた言葉、自分の言葉	131
第二十二回 まだ分からないことを書く	133
第二十三回 削ると見えるもの	135
第二十四回 自分の言葉で、小さく結ぶ	136
おわりに	141

問題編

第一回から第二十四回まで

第一部

いつもの言葉に気づく

普段は何気なく使っている言葉や、見過ごしている表現に立ち止まり、日常を少し面白く見る入口をつくれます。

- 第一回 「何でもいい」の中身
- 第二回 「大丈夫」は、どの大丈夫？
- 第三回 その「ちゃんと」は、どれくらい？
- 第四回 どこから話せば伝わる？
- 第五回 見たことと、感じたこと
- 第六回 手が覚えていた場所

問題編

第一回 「何でもいい」の中身

小さな稽古

昼休み、二人が食べるものを相談しています。

彩「お昼、何がいい？」

健「何でもいいよ。」

彩「では、カレーにしようか。」

健「今日は辛いものは、ちょっと。」

彩「サンドイッチは？」

健「昨日、パンだったんだよね。」

彩「では、冷たいそば。」

健「今日は温かいものもいいな。」

彩「それは、あまり『何でもいい』ではないのでは。」

健「たしかに。でも、食べたいものが決まっていたわけでもないんだ。」

一 まず受け取る

彩の最後の言葉を読んで、いちばん近い感想を一つ選んでください。ここは第一印象を確かめる欄です。正誤はありません。

ア 彩の言うとおりに思う

イ 健の言いたいことも分かる

ウ 二人とも少しずつ分かる

エ ほかのことを感じた

記入欄：_____

二 「何でもいい」は何を表していたか

会話全体から考えると、健の「何でもいい」に最も近いものを、次から一つ選んでください。

ア 自分では決めたくないのに、彩に店も料理も任せたい

イ 食べたい物は決まっていないが、彩の提案には合わせられる

ウ 強く食べたい物はないが、避けたい条件はいくつかある

エ 希望は言わず、彩が出した候補の中から選びたい

答え：_____

三 二つの「決まっていない」

次の二つは、似ていますが同じではありません。それぞれの違いが分かるように、空欄を埋めてください。

(1) 食べたいものが決まっていない。

→ 積極的な_____が、まだない。

(2) 何を食べてもよい。

→食べ物についての_____が、ない。

四 少しだけ具体的に作る

健が最初から次のように言っていれば、彩は選びやすくなります。会話の内容に合うように、空欄を埋めてください。

「強い希望はないけれど、今日は（ ）ものもいい。辛いものとパンは避けたいな。」

五 似た表現をほどく

次の曖昧な表現から一つ選び、相手が動きやすい言い方に直してください。自分の経験を書く必要はありません。用意された場面を使ってかまいません。

ア 「いつでもいいです」

場面：打合せの日を決める。ただし、午前中は難しい。

イ 「どこでもいいです」

場面：店を決める。ただし、静かに話せる場所がよい。

ウ 「だいたい大丈夫です」

場面：人数を知らせてもらう。ただし、前日までに知りたい。

選んだもの：_____

言い換え：

小さなまとめ

「希望がない」と「条件がない」は、同じではありません。曖昧な言葉をすべてなくす必要はありませんが、相手が決めるために必要な条件を一つ添えるだけで、言葉はずいぶん働きやすくなります。

第二回 「大丈夫」は、どの大丈夫？

標準の回

「大丈夫」は便利な言葉です。その一方で、何が大丈夫なのかは、場面の中に隠れていることがあります。

次の四つの会話を読んでください。

場面 A 家で

母「熱は下がった？」

娘「うん。もう大丈夫。」

場面 B 職場で

森「この資料、明日の午前にお渡ししてもよいですか。」

上司「はい、それで大丈夫です。」

場面 C 駅で

友人「その荷物、持とうか。」

私「ありがとう。でも、大丈夫。」

場面 D メッセージで

相手「今から電話しても大丈夫？」

私「十時までなら大丈夫です。」

一 場面ごとの意味

それぞれの「大丈夫」が表している内容として最も近いものを、次のア～エから一つずつ選んでください。同じ記号を二度使わないものとします。

ア その時間・方法で都合がよい

イ 心配するほどの問題はなくなった

ウ 助けを受けなくても自分でできる

エ その提案や条件で支障がない

場面 A : ____ 場面 B : ____ 場面 C : ____ 場面 D : ____

二 省略された内容を補う

場面 B の「それで大丈夫です」の「それ」が指す内容を、会話中の言葉を用いて書いてください。

三 同じ返事でも、何が違うか

次の二つの会話を比べます。

会話 1

甲「窓を開けてもよいですか。」

乙「大丈夫です。」

会話 2

甲「顔色がよくないようですが、大丈夫ですか。」

乙「大丈夫です。」

(1) 会話 1 の乙は、何について「大丈夫」と答えていますか。

(2) 会話 2 の乙は、どのような意味で答えていると読むのが自然ですか。次から一つ選んでください。

ア 窓を開けても体調には差し支えない

イ 今すぐ助けを求めるほどではない

ウ 甲が見るほど顔色は悪くない

エ 会話を続ける余裕が今は残っていない

答え：_____

(3) 会話 2 の「大丈夫です」だけから、乙が本当に苦しくないと断定できますか。

「できる／できない」のどちらかを選び、その理由を短く書いてください。

断定：できる・できない

理由：_____

四 「大丈夫」の前後を見る

次のうち、何が大丈夫なのかが最も分かりにくい返事を一つ選んでください。

ア 「明日の三時なら大丈夫です。」

イ 「一人で帰れるので大丈夫です。」

ウ 「今のところは大丈夫です。」

エ 「少し休めば体調は大丈夫です。」

答え：_____

その返事の前に、どのような質問があったかによって意味が変わることを、二つの例で示してください。

例 1：_____

例 2：_____

五 別の言葉に置き換える

次の「大丈夫」を、意味がよりはっきりする言葉に置き換えてください。答えは一例でかまいません。

(1) 「その席を使っても大丈夫ですよ。」

→「その席を（ ）。」

(2) 「今日はもう大丈夫です。」

→「今日はもう（ ）。」

(3) 「手伝いは大丈夫です。」

→「手伝いは（ ）。」

六 言葉だけでは決まらないもの

次のメッセージを読みます。

修正した資料を送りました。これで大丈夫でしょうか。

――大丈夫です。

この返事について、本文から確かに言えることを一つ選んでください。

ア 修正箇所について、受け手はもう改善点を感じていない

イ 資料は、送り手が確認を求めた範囲では受け入れられた

ウ 受け手は内容に納得したが、返事を書く余裕がなかった

エ 受け手は資料全体を詳しく読み、問題がないと判断した

答え：_____

次に、この返事だけでは確かめられないことを一つ書いてください。

七 使う場面を軽く点検する

次の三つから一つ選んで取り組んでください。個人的な事情を詳しく書く必要はありません。

A 文章の中にとどまる

場面Cの「ありがとう。でも、大丈夫。」を、相手の気遣いを受け取りつつ、意味を具体的にする一文へ直してください。

B 用意された場面で考える

知人から「来週の集まり、参加できそう？」と聞かれました。参加できるが、開始から三十分ほど遅れる予定です。「大丈夫」を使わずに返事を書いてください。

C 自分の言葉を一つだけ見る

自分が「大丈夫」と言うことのある場面を、一語か短い句で書いてください。そのとき省略している内容を一つだけ補ってください。書きたくない場合は、AまたはBを選べます。

場面：_____

補った言い方：_____

小さなまとめ

「大丈夫」の意味は、辞書の中だけで決まるものではありません。何を尋ねられたか、誰が誰に答えたか、どの条件が話題になっているかによって、同じ二文字の中身が変わります。便利な言葉だからこそ、必要なときには中身を一言だけ見えるようにできます。

第三回 その「ちゃんと」は、どれくらい？

小さな稽古

次の三つの指示を読んでください。

- ①「会議室を、ちゃんとしておいてください。」
- ②「資料は、早めに送ってください。」
- ③「届いた箱は、適当に置いておいてください。」

一 人によってずれやすい言葉

①～③の言葉が分かりにくくなる主な理由として、最も近いものを一つ選んでください。

ア 日常語は意味が多く、場面によって読み方が変わるから

イ 話し手と聞き手で、基準や範囲が異なる場合があるから

ウ 短い命令文は、内容よりも相手への強さが伝わりやすいから

エ 具体的な条件は、長い文章にしなければ伝えられないから

答え：_____

二 「ちゃんと」の中身が見えるようにする

①の話し手が望んでいることは、次の三つだったとします。

- ・机を口の字に並べる
- ・各席に資料を一部ずつ置く
- ・開始十分前までに終える

この内容を用いて、①を具体的な指示に直してください。

三 「早めに」は何時までか

会議は金曜日の午後三時です。木曜日の午前中に確認したい資料について頼むなら、次のうち最も分かりやすいものを一つ選んでください。

ア できれば木曜日のうちに送ってください

イ 木曜日の早い時間に送ってください

ウ 木曜日の午前十時までに送ってください

エ 会議の前日までには送ってください

答え：_____

四 「適当」はいつ役に立つか

「適当に置いておいて」が、いつも悪い指示とは限りません。たとえば、箱をあつて全員で仕分けるため、今は通路をふさがなければよい場合です。

この場面に合う言い方を、次から一つ選んでください。

- ア あつて仕分けるので、空いている所へ置いてください
- イ 通路をふさがない場所なら、置き方は問いません
- ウ 箱が崩れないよう、きれいにまとめて置いてください
- エ ほかの荷物と同じ場所へ、向きをそろえて置いてください

答え：_____

五 曖昧な言葉を残してよいとき

次の考え方として最も適切なものを一つ選んでください。

- ア 曖昧な言葉は誤解を招くため、親しい相手にも使わない方がよい
- イ 経験を共有している相手なら、条件を確かめず短い言葉で任せてよい
- ウ 基準を共有している場面では短く伝え、ずれやすい条件だけ具体化するとよい
- エ 基準を詳しく説明するほど、どの相手にも指示が伝わりやすくなる

答え：_____

六 相手が動きやすい指示を作る

次の一つを選び、必要な条件を二つ以上入れて書き換えてください。自分の経験を書く必要はありません。

- ア 「部屋をきれいにしておいて」
- イ 「少し多めに用意して」
- ウ 「近いうちに返事をください」

選んだもの：_____

書き換え：

小さなまとめ

曖昧な言葉には、共有された基準を短く呼び出す便利さがあります。問題になるのは、言葉が短いことではなく、必要な基準まで相手に預けてしまうことです。

第四回 どこから話せば伝わる？

標準の回

説明するとき、起きた順にすべて話せばよいとは限りません。相手がまず知りたいことによって、言葉の順序は変わります。

一 遅れる連絡を組み立てる

午前十時からの打合せに向かっている人が、上司へ連絡します。次の情報があります。

- ア 電車が十五分ほど遅れている
- イ 現在は午前九時四十二分である
- ウ 到着は午前十時七分ごろになる見込みである
- エ 配布資料は共有フォルダに入っている
- オ 同僚の田中さんが先に説明を始められる
- カ 遅延情報を確認したのは午前九時四十分である

(1) 上司への連絡に、入れなくてもよい情報を一つ選んでください。

答え：_____

(2) 最初に伝える内容として最も適切なものを一つ選んでください。

- ア 連絡を書いた現在の時刻
- イ 到着が七分ほど遅れる見込み
- ウ 遅延情報を確認した時刻
- エ 配布資料を共有した手順

答え：_____

(3) 次の三つを、相手が状況と対応をつかみやすい順に並べてください。

①遅れる理由 ②到着見込み ③先にできる対応

順番：____ → ____ → ____

二 相手によって必要な情報は変わる

同じ遅刻について、次の三人へ伝えるとします。

- A 打合せを進行する上司
- B 受付で待っている来客
- C 先に説明を始める同僚の田中さん

次の情報のうち、それぞれの相手に特に必要なものを二つずつ選んでください。複数の相手に同じ情報を選んでもかまいません。

- ア 到着予定時刻
- イ 配布資料の保存場所
- ウ 来客を待たせる時間の見込み
- エ 田中さんをお願いしたい説明の範囲

- オ 電車が遅れた路線名
カ 遅延情報を確認した時刻
A : ____ ・ ____
B : ____ ・ ____
C : ____ ・ ____

三 長い説明を先に短くする

次の連絡文を読んでください。

今朝はいつもより少し早く家を出たのですが、駅に着いたところで電車が止まっていて、しばらく待ってから別の路線へ回ろうとしたものの、そちらも混んでいて、いま移動しているところです。たぶん十時七分ごろに着くと思います。

この文を、結論を先にした二文に直してください。理由は一つにまとめてかまいません。

四 小さな失敗を訂正する

担当者が、取引先へ古い版の資料を送ってしまいました。すぐに気づき、正しい版を送り直します。

次の四文を、相手が内容をつかみやすい順に並べ替えてください。

- ア 先ほど送付した添付ファイルは、古い版でした。
イ 失礼いたしました。
ウ 正しい版を、このメールに添付いたします。
エ 先ほどのファイルは使用せず、こちらをご確認ください。
順番 : ____ → ____ → ____ → ____

五 不足している情報を見つける

次の連絡には、相手が行動するための情報が一つ不足しています。

明日の集まりは、会場が変更になりました。よろしくお願いします。

不足している情報として、最も重要なものを一つ選んでください。

- ア 変更後の会場を利用できる時間
イ 新しい会場の場所と行き方
ウ 会場変更が決まったおおよその時刻
エ 変更後の会場で利用できる設備
答え : _____

不足情報を補い、二文以内の連絡にしてください。新しい会場は「東館二階・第二会議室」とします。

六 目的に合う説明を書く

次の架空の場面を読み、図書館の利用者へ知らせる短い案内を書いてください。

場面

- ・館内整理のため、七月二十日の閉館時刻が午後八時から午後六時へ変わる
- ・開館時刻は午前九時のまま
- ・返却ポストは午後六時以降も利用できる

条件

- ・最初の一文で、何が変わるかを伝える
- ・三文以内にする
- ・理由と、利用できるものを一つずつ入れる

案内：

七 順序を選ぶ理由

説明の順序について、最も適切な考え方を一つ選んでください。

- ア 出来事を起きた順に並べれば、相手は必要な情報を判断しやすい
- イ 自分が苦労した過程を先に示せば、説明の納得感が高まりやすい
- ウ 相手が判断や行動に使う情報を見極め、それを先に置くとよい
- エ 必要な情報を少なく絞れば、伝える順序は考えなくてもよい

答え：_____

小さなまとめ

説明の順序は、出来事の順序を写すだけのものではありません。「相手は、まず何を知れば動けるか」を考えると、残す情報と後に回す情報が見えてきます。

第五回 見たことと、感じたこと

立ち止まる回

午後四時、雨の降る日に、小さな喫茶店へ三人が入りました。同じ店内について書かれた三つの文章を読みます。

文章 A

入口の右側に、二人掛けのテーブルが四つ並んでいた。窓際の二卓には客がいて、一人は本を読み、もう一人はカップを両手で包んでいた。カウンターの端には、洗い終えたグラスが六つ伏せてあった。奥の時計は四時十分を指していた。天井のスピーカーから、小さなピアノ曲が流れていた。

文章 B

店に入ると、外の雨音が一枚の扉の向こうへ退いた。窓際の二人は、それぞれ別の時間の中にいるようだった。カップを包む手も、本の頁をめくる指も急がない。ピアノの音は、店の空気を静かに均していた。

文章 C

店内は活気に乏しく、どこか取り残されたように見えた。窓際の客は長居をしているらしく、店員も気にしていないようだった。カウンターに並ぶグラスからは、仕事がひと段落して手持ち無沙汰になった店の様子がうかがえた。

一 最初の印象

三つの文章のうち、最も店へ行ってみたいと感じたものを一つ選んでください。または「どれもでない」としてもかまいません。ここは正誤のない課題です。

選んだ文章：_____

気になった言葉：_____

二 四つの種類に分ける

この回では、表現を次の四つに分けて考えます。

観察 目や耳などで直接確かめられること

印象 その場や物事が、自分にはどのように感じられたか

評価 よい・悪い、望ましい・望ましくないなどの判断

推測 見えていない事情や原因を、手がかりから考えたこと

次の表現を、「観察・印象・評価・推測」のいずれかに分類してください。

(1) 二人掛けのテーブルが四つ並んでいた。_____

(2) それぞれ別の時間の中にいるようだった。_____

(3) 店内は活気に乏しい。_____

(4) 窓際の客は長居をしているらしい。_____

- (5) 小さなピアノ曲が流れていた。_____
- (6) 店員は手持ち無沙汰になったようだ。_____

三 本文から確かめられること

三つの文章すべてを読んだうえで、確実に言えることを二つ選んでください。

- ア 店内には空いている席が二卓ある
- イ 窓際の二卓には客が座っている
- ウ 店の外では雨が降っている
- エ 洗い終えたグラスは六人分である
- オ 店内の音楽は生演奏で流れている

答え：____・____

四 同じ事実に何が加わったか

文章 A には、次の一文があります。

カウンターの端には、洗い終えたグラスが六つ伏せてあった。

文章 C では、この事実から次のように書いています。

カウンターに並ぶグラスからは、仕事がひと段落して手持ち無沙汰になった店の様子がうかがえた。

- (1) 文章 C で新しく加わった内容を、次から二つ選んでください。

- ア グラスが六つ伏せて置かれていること
- イ 仕事がひと段落したという推測
- ウ グラスがカウンターの端にあること
- エ 店員が手持ち無沙汰だという推測

答え：____・____

- (2) 文章 C の推測は、必ず事実だと言えますか。最も適切な説明を一つ選んでください。

- ア グラスが六つ伏せてあるため、店の仕事は終わったと言える
- イ 文章 C にそう書かれているため、観察された事実として扱える
- ウ 一つの可能性としては成り立つが、別の事情も考えられる
- エ 店内が静かなため、店員が手持ち無沙汰だったと確かめられる

答え：_____

- (3) 別の事情を一つ考えてください。これは複数の答えが成立します。

五 事実と評価の間

「店内は活気に乏しい」を、評価を入れず、目や耳で確かめられる内容へ言い換えてください。文章 A の情報を使ってかまいません。

六 どの事実を選ぶか

同じ店を紹介する二つの短文を作ります。次の事実から、それぞれに合うものを三つ選んでください。同じ事実を両方に使ってもかまいません。

- ア 二人掛けのテーブルが四つある
- イ 窓際の二卓に客がいる
- ウ 一人は本を読んでいる
- エ 一人はカップを両手で包んでいる
- オ グラスが六つ伏せてある
- カ 小さなピアノ曲が流れている
- キ 店の外では雨が降っている

紹介1 静かに過ごせる店として書く

選ぶ事実： ____ ・ ____ ・ ____

短文：

紹介2 少しさびしい店として書く

選ぶ事実： ____ ・ ____ ・ ____

短文：

七 選ばなかった事実

紹介文では、事実を偽らなくても、何を選ぶかによって印象が変わります。紹介1または紹介2で、あえて使わなかった事実の一つ挙げ、その理由を書いてください。

使わなかった事実： _____

理由： _____

八 評価をほどいてみる

次の評価語を一つ選び、「そう感じた手がかり」と「ほかにありうる見方」に分けて書いてください。ここでは、評価を取り消すのではなく、中身を見えるようにします。

- ア 落ち着いた店
- イ さびしい店
- ウ 気の利かない店員

選んだ言葉： _____

そう感じた手がかり：

ほかにありうる見方：

九 書き手の位置を見る

文章 B と文章 C について、最も適切な説明を一つ選んでください。

- ア B には比喩による印象があるが、書き手の感じ方は C だけに表れている
イ B は比喩で印象を示し、C は評価や推測を前に出している
ウ B も C も文章 A の事実を言い換えただけで、書き手の位置は同じである
エ C は具体的な物を多く挙げているため、B より客観的な文章である
答え：_____

十 読み手として立ち止まる

文章 C を読んで「この店はよくない店だ」と思ったとします。その第一印象を消さずに、次に確かめるとよいことを一つ書いてください。

十一 外側のものを描写する

次の架空の場所を、二文から四文で描写してください。

場所の情報

- ・ 白い壁の待合室
- ・ 木の長椅子が二脚
- ・ 丸い時計が十一時二十分を指している
- ・ 窓の外で、自転車のベルが一度鳴る
- ・ 机の上に、折り目のついた案内冊子が三冊ある

次の A～C から一つ選んでください。

A 観察だけで書く

見えたもの、聞こえた音だけを書きます。

B 印象を一つ加える

観察に、「自分にはどう感じられたか」を一つ加えます。

C 異なる二つの印象で書く

同じ事実を使い、「落ち着いている」と「心細い」の二通りに書き分けます。

選んだもの：_____

記述：

小さなまとめ

見たことと感じたことは、どちらか一方だけが大切なわけではありません。感じたことには、その人がその場をどう受け取ったかが表れます。ただし、それを事実として伝えるときには、どこまで見えていて、どこから考えを足したのかを分けられます。分けることは、感じ方を捨てることではありません。

第六回 手が覚えていた場所

標準の回

次の文章を読んで、あとの問いに答えてください。

手が覚えていた場所

白いカップの縁が欠けたのは、冬の終わりだった。洗い終えて水切りかごへ置くと、隣の皿に軽く当たった。乾いた音がして、縁に米粒ほどのくぼみができた。

指でなぞるだけなら、ほとんど分らない。それでも口をつけるたびに、欠けたところが唇へ触れた。痛いほどではない。ただ、飲むたびにそこだけが先に分かる。私は数日迷ってから、そのカップを食器棚の奥へ移した。

白地に細い青線が一本あるだけの、特別高価でも珍しくもないカップだった。引っ越して間もないころ、駅前の店で二つ買った。片方はずいぶん前に割れ、残った一つを、朝のコーヒーにも夜の白湯にも使っていた。

翌朝、私は新しい灰色のカップを棚から出した。ところが次の日も、その次の日も、扉を開けた手は、いったん右奥へ向かった。そこに白いカップはない。目で見れば分かっているのに、手のほうが先に、いつもの場所を探してしまう。

棚には、カップ一つ分の空白が残った。正確には、空白などない。灰色のカップを少し右へ寄せれば、棚はすぐ埋まる。それでも私は、しばらくそこを詰めなかった。何も置かれていない幅が、使い終えた言葉のあとの間のように見えた。

春になって、白いカップを棚から出した。飲み物には使わず、窓辺で小さな匙を立てることにした。青い線は少しかすれ、欠けた縁には午後の光が細くたまった。

遊びに来た友人が、それを見て言った。

「欠けているのに、まだ使っているんだね。」

「まだ場所があるから。」

私はそう答えた。けれど、言ってから、少し違う気がした。カップの置き場所が残っていたのではない。残っていたのは、扉を開けたあとに右奥へ伸びる手の動きや、持ち上げる前から知っている重さのほうだったのかもしれない。

手は、持つものがなくなってからも、しばらくその重さを覚えている。

私は答えを言い直さず、カップの青い線に午後の光がたまるのを見ていた。

一 本文に書かれていること

次のうち、本文の内容と合うものを一つ選んでください。

ア 白いカップは、引っ越す前から長く使い続けていた

イ 白いカップの欠けは、指でなぞるとすぐ分かる大きさだった

ウ 白いカップは、以前は朝にも夜にも使われていた

エ 友人が灰色のカップを選び、書き手へ贈った

答え：_____

二 カップを奥へ移した理由

「私は数日迷ってから、そのカップを食器棚の奥へ移した」とあります。直接の理由を、本文に即して二十字程度で書いてください。

三 手のほうが先に知っていた

「目で見れば分かっているのに、手のほうが先に、いつもの場所を探してしまう」とあります。ここで表されていることとして最も適切なものを一つ選んでください。

ア 棚の奥が暗く、白いカップの有無を目では確かめにくかった

イ カップがないと知っていても、長く続いた手の動きが身体に残っていた

ウ 灰色のカップにまだ慣れず、使うたび白いカップと比べていた

エ カップを奥へ移したことを忘れ、元の場所にあると思っていた

答え：_____

四 「空白」の二つの意味

「棚には、カップ一つ分の空白が残った」とあります。

(1) 目に見える意味では、どのような空白ですか。

(2) 書き手にとって、その空白は何を感じさせるものでしたか。「使い終えた言葉のあとの間」という表現を手がかりに、四十字程度で書いてください。

五 表現の働き

「何も置かれていない幅が、使い終えた言葉のあとの間のように見えた」という比喻には、どのような働きがありますか。最も適切なものを一つ選んでください。

ア 棚にできた一杯分の幅を、目に見えるよう正確に説明する

イ カップがなくなったあとを、すぐには埋めたくない余韻として表す

ウ カップを失ったことで、人との会話まで避けたい気持ちを表す

エ 灰色のカップを右へ寄せ、新しい使い方へ移る必要を強調する

答え：_____

六 題名を考える

本文の題名は「手が覚えていた場所」です。この題名が本文に合う理由を、三十字から五十字程度で書いてください。

別の題名をつけるなら、どのようなものにしますか。複数の答えが成立します。

題名： _____

七 最後を読む

書き手が友人への答えを「言い直さなかった」理由は、本文から一つに決められませんか。本文に合う想像を、次から一つ選ぶか、自分で短く書いてください。

ア 友人に説明しても無駄だと思ったから

イ 自分の中でも、まだぴったりの言葉が決まっていなかったから

ウ 友人の質問を聞いていなかったから

エ 欠けたカップの値段を忘れたから

選んだもの： _____

または、自分の想像：

八 距離を選んで書く

次の A～C から一つだけ選んでください。どれを選んでも、この回の学びになります。

A 文章の中にとどまる

白いカップが「飲む道具」から別の役割へ変わったことを、本文に即して二文で説明する。

B 暮らしへ少し近づける

長く使ったため、手が場所や重さを覚えていそうな物を一つ挙げる。詳しい思い出は書かず、動作だけを二文で書く。

C 物の特徴だけを書く

本文の白いカップを、感情を表す言葉を使わず、色・形・傷・光のうち三つを入れて描写する。

選んだもの： _____

記述：

第二部

受け取り方をほどく

出来事と受け取りの間を見て、感じたことを残しながら、確かなことと複数の見方を確かめます。

第七回 何が起きて、何を思ったか

第八回 「いつも」と言いたくなるとき

第九回 同じ出来事、二つの話

第十回 「冷たい」は気持ちだろうか

第十一回 短い返事が気になった

第十二回 違和感を急いで消さない

問題編

第七回 何が起きて、何を思ったか

標準の回

土曜日、悠と麻衣は午後二時に駅の西口で待ち合わせました。悠は五分前に着きましたが、二時になっても麻衣は見えません。

午後二時六分 麻衣 「ごめん。十五分ほど遅れます。」

午後二時二十分 麻衣はまだ来ておらず、遅れる理由は書かれていない。

午後二時二十四分 麻衣が西口に着いた。

待っている間、悠はこう記しました。

「また待つことになった。予定は後回しなのだろうか。腹が立つし、途中で何かあったのではと心配でもある。遅れると分かった時点で、理由だけでも知らせてほしかった。」

一 まず受け取る

悠の記録を読んだ第一印象に近いものを一つ選びます。ここは正誤を決める欄ではありません。

ア 悠が腹を立てるのは自然だと思う

イ 麻衣に何か事情がありそうだと思う

ウ 腹立たしさと心配が同時にあるのが分かる

エ ほかのことを感じた

選んだもの：_____

二 四つに分けてみる

次の言葉を、出来事・受け取り・感情・願いのいずれかに分けてください。

言葉	種類
(1) 約束の時刻は午後二時だった	
(2) 午後二時二十分になっても麻衣は来ていなかった	
(3) 私との予定は後回しなのだろう	
(4) 腹が立った	
(5) 途中で何かあったのではないかな	
(6) 心配だった	

言葉	種類
(7) 理由だけでも早く知らせてほしかった	

三 混ぜた一文をほどこ

悠が、待っている最中に次のように書いたとします。

麻衣は二十分も来なかった。私との約束を軽く見ているから、私は大切にされていない。

(1) 確認できる出来事へ戻す

「二十分も」には、長く感じたという受け取りも含まれます。時刻を用いて、確認できる出来事だけを書いてください。

(2) 悠が加えて読んだことを抜き出す

この一文のうち、麻衣の態度や関係についての受け取りに当たる部分を二つ書いてください。

(3) 感情と願いを言葉にする

元の場面に合う感情を二つ、願いを一つ書いてください。複数の答えが成立します。

四 どこまでが、場面から言えるか

元の場面と悠の記録から、その時点で確かめられるものを二つ選んでください。

ア 午後二時二十分の時点では、悠には麻衣が遅れる理由が分からなかった

イ 麻衣は悠との約束を軽く考え、あえて理由を書かず連絡を短くした

ウ 悠は予定を後回しにされたと受け取り、腹立たしさと心配を感じた

エ 麻衣は悠を心配させないため、理由を書かず到着見込みだけを伝えた

答え：_____

二つ選びます。人物の意図は、書かれていることだけから決めません。

五 説明が加わったあと

麻衣が着いてから、次のことが分かりました。

麻衣 「乗っていた電車が午後一時五十分ごろ駅と駅の間で止まったの。地下で電波が入らず、次の駅に着いてから連絡した。十五分くらいだと思ったけれど、乗換口も混んでいて遅くなった。ごめん。」

この説明を踏まえた考え方として、最も適切なものを一つ選んでください。

ア 事情が分かったため、悠が待つ間に感じた腹立たしさや心配は誤りになる

イ 麻衣の説明によって、約束を軽く扱う意図がなかったと証明された

ウ 事情が分かっても、悠が待った事実や、その間の感情まで消えるわけではない

エ 電車の停止が原因なので、二時二十四分に着いたという記録は修正される

答え：_____

六 同じ待ち時間を、二つに読む

麻衣の説明を聞く前なら、同じ出来事から次の二つの受け取り方が生まれることがあります。

受け取り A 「また待たされた。私との約束は後回しなのかもしれない。」

受け取り B 「ふだん時間を守る人だから、途中で何か起きたのかもしれない。」

(1) 二つに共通する、確認できる出来事

(2) それぞれが出来事に加えたこと

A と B について、一つずつ短く書いてください。

(3) 読みを動かしそうな情報

以前にも遅れが続いていたか、ふだんは時間を守るかなど、受け取りを動かしそうな情報を一つ挙げてください。正答は一つではありません。

七 距離を選んで整理する

次の A・B のどちらか一つを選んでください。書かずに頭の中で分けるだけでもかまいません。

A 文章の中にとどまる

説明を聞いたあとの悠について、四つを整理してください。

出来事	
受け取り	

出来事	
感情	
願い	

B 暮らしへ少し近づける

連絡が少し遅れた、頼んだ物が見つからなかった、予定が小さく変わった、などの軽い出来事を一つ選びます。詳しい事情や人名は書かず、四つだけを整理してください。

出来事	
受け取り	
感情	
願い	

小さなまとめ

出来事、受け取り、感情、願いを分けるのは、感情を弱めるためではありません。何が確かで、何を自分が補い、何を望んでいたのかが見えると、感じたことを残したまま次の言葉を選びやすくなります。

第八回 「いつも」と言いたくなるとき

小さな稽古

不満が積もると、言葉の範囲も大きくなることがあります。次の三つは、実際に確かめられたことと、その場で出た言葉です。

- A 食器** 「あなたは、いつも食器をそのままにする。」
直近四日では、火・木・金は流しに残り、水はその日のうちに洗われていた。
- B 会議** 「みんな、その案に反対だった。」
八人中、反対三人、保留二人、賛成二人。発言しなかった人が一人いた。
- C 頼み事** 「頼んでも、全然やってくれない。」
先月の三件は、二件が催促後に完了し、一件はまだ終わっていない。

一 範囲を広げる言葉

A～Cのうち、確かめられた範囲よりも大きく言っている語を、それぞれ一つ抜き出してください。

A: _____

B: _____

C: _____

二 言葉どおりには確かめられないもの

A～Cの記録に照らすと、最も適切な説明を一つ選んでください。

ア Aでは、直近四日のすべてで食器が翌日まで残っていた

イ Bでは、反対三人と保留二人を合わせ、過半数が案を退けた

ウ Cでは、一件が未完了なので、頼み事はほとんど進んでいない

エ 三つとも、強い語が示す範囲を、そのまま事実としては確認できない

答え: _____

三 強さの奥にある不満

強い語を消す前に、話し手が何に困っていそうかを考えます。A～Cから一つ選び、不満の中心を一文で書いてください。複数の答えが成立します。

選んだもの: _____

四 不満を薄めずに、範囲を直す

Aの言い換えとして、確認できる範囲と希望を最もよく残しているものを一つ選んでください。

- ア 直近四日の多くで食器が残ったので、あなたはいつも片づけないと思う
イ 食器が残る日もあるようなので、できる範囲で気をつけてほしい
ウ 直近四日のうち三日、食器が流しに残っていた。使った日のうちに洗ってほしい
エ 食器が三日残ったことから、片づけを大切にしない性格だと感じる
答え：_____

五 二つの言い換えを作る

(1) B「みんな、その案に反対だった。」

人数を示しつつ、反対意見が強く印象に残ったことも書ける言い方へ直してください。

(2) C「頼んでも、全然やってくれない。」

終わったものと終わっていないものを示し、これからどうしてほしいかも加えてください。

言い換えには複数の答えが成立します。確認できる範囲と、不満の中心がともに残っているかを見ます。

小さなまとめ

「いつも」と言いたくなるほど、同じ不満が積もっていることがあります。範囲を確かめるのは、その切実さを消すためではありません。何が続き、どこで困り、これから何を望むのかを、相手と同じ場所で見られるようにするためです。

第九回 同じ出来事、二つの話

標準の回

地域センターで行われた小さな読み聞かせ会について、担当した佐伯さんと橋本さんが文章を残しました。二人は同じ会に参加しています。

文章 A 佐伯さんの記録

午前十時の開始時、用意した写真がスクリーンに映らなかった。橋本さんはすぐに写真なしで絵本を読み始め、私は映写機を確かめた。八分ほどで画面が戻ると、橋本さんはいったん手を止め、写真を見せながら続きを読んだ。子どもたちの視線も画面へ戻り、笑い声が上がった。終了は予定より十分遅い十時五十分になったが、その場で切り替えながら、落ち着いて最後まで進められたと思う。

文章 B 橋本さんの記録

午前十時になってもスクリーンに写真が出ず、子どもたちは画面を見たり後ろを振り返ったりしていた。佐伯さんが映写機を調べる間、私は予定を変えて絵本だけを読み始めた。八分ほどで写真が映ったため、途中で読みを止め、画面を見てもらってから再開した。会は十時五十分に終わった。対応はできたものの、流れが二度に分かれたので、次回機器の確認と写真を入れる順序を見直したい。

一 まず、二つの話を読む

どちらの文章が、より安心して読めましたか。近いものを選び、気になった言葉を一つ書いてください。正答はありません。

ア 文章 A

イ 文章 B

ウ どちらとも言いにくい

選んだもの：_____

気になった言葉：

二 二つに共通する事実

次のうち、二つの文章に共通して書かれている事実をすべて選んでください。

- (1) 会は午前十時に始まる予定だった
- (2) 開始時、スクリーンに写真が映らなかった
- (3) 橋本さんが写真なしで絵本を読み始めた
- (4) 佐伯さんが映写機を確かめた
- (5) 八分ほどで写真が映った
- (6) 会の間、子どもたちの笑い声が続いていた
- (7) 映写機の不調は、会の前の確認不足によって起きた
- (8) 会は午前十時五十分に終わった

答え：_____

三 共通していなくても、矛盾とは限らない

文章 A だけに書かれている「子どもたちの笑い声」について、最も適切な考え方を一つ選んでください。

- ア 文章 B にないため、笑い声が実際にあったかは確かめられない
- イ 文章 A に笑い声があるため、全員が会の間ずっと楽しんでいたと分かる
- ウ A が選んで書いた事実であり、B が触れていないことだけでは矛盾にならない
- エ 二人の記録に違いがあるため、共通する時刻や行動も事実とは言えない

答え：_____

四 基本の流れと、意味づけ

二つの文章の関係を表すものとして、最も適切なものを一つ選んでください。

- ア 出来事の大まかな流れは共通するが、選んだ情報と重く見る点が異なる
- イ A は対応できた事実を、B はそのときの感情だけを記録している
- ウ 二人の評価が異なるため、時刻や行動の記録も一方しか成立しない
- エ B が改善点を書いたことで、A の笑い声や進行は事実でなくなる

答え：_____

五 どこに光を当てたか

二人が同じ場面をどう書いたか、本文中の言葉を使って比べてください。

場面	文章 A	文章 B
画面が出ない間		
写真が映ったあと		
会の終わり		

六 二つの文章の働き

文章全体から見たとき、A と B の重点として近いものを、それぞれ一つずつ選んでください。同じ記号を使わないものとします。

- ア その場で対応し、会を続けられたこと
- イ 次回に向け、進行と準備を見直すこと
- ウ 機器の不調を誰か一人の責任にすること
- エ 参加者の人数を正確に数えること

文章 A：_____

文章 B：_____

七 第三者の立場からまとめる

二つの文章を読んでいない人へ、会で起きたことを三～四文でまとめてください。次の四点を入れます。

- ・ 開始時に起きたこと
- ・ 二人がしたこと
- ・ 終了時刻
- ・ 二人の見方の違い

ここには複数の答えが成立します。最後の一点は、どちらかを正しい側にせず書きます。

第三者からのまとめ：

八 立場の表れる言葉

文章 A・B から、書き手の重点や評価が表れている言葉を一つずつ抜き出してください。

文章 A : _____

文章 B : _____

抜き出した二つが、出来事にどのような意味を与えているか、短く書いてください。

九 二つの話を並べる意味

最も適切なものを一つ選んでください。

- ア 二人の記録を重ねれば、その場にいた人の感想を一つにまとめられる
イ 共通する出来事と異なる重点を分けると、一方だけでは見えにくい面が見える
ウ 見方が違うときは、事実より読み手が納得できる記録を選べばよい
エ 改善点を中心に書いた記録は、出来事を否定的に評価した記録だと分かる
答え：_____

小さなまとめ

同じ出来事を語っても、どの情報を選び、どこに重みを置くかで話の輪郭は変わります。二つの話を比べるときは、まず共通する事実を置き、そのうえで選択と強調の違いを見ることができます。

第十回 「冷たい」は気持ちだろうか

小さな稽古

次の三つは、人の言動を受けて出た短い言葉です。

- A** 相談のメッセージに「今週は返事が難しいです」とだけ返ってきた。
——「冷たい。」
- B** 地域の催しの担当者が、資料を渡して二日前に参加を取りやめた。
——「無責任だ。」
- C** 同居人が、相談せずに共有棚の置き場所を変えた。
——「勝手だ。」

一 感情を表す言葉、相手を評する言葉

次の六つを、「自分の感情・状態」と「相手や行動への評価」に分けてください。

言葉	どちらか
寂しい	
冷たい	
困った	
無責任だ	
腹が立った	
勝手だ	

二 一つの評価語の背後にあるもの

Aの「冷たい」の背後にありうるものを、次からすべて選んでください。本文から一つに決めるのではなく、成立しうる可能性を選びます。

- A** すぐ話を聞いてもらえず、寂しかった
イ 関係が悪くなったのかと不安になった
ウ 今は無理でも、次に話せる見込みを知らせてほしかった
エ 短い返事から、相手には悪意があると決めた

答え：_____

A・イは感情、ウは願いです。エは相手の内面についての断定です。

三 評価を消さずに、少し詳しくする

A の話し手が「冷たいと感じた」ことを残しつつ、感情と願いを加えた一～二文を書いてください。複数の答えが成立します。

四 別の評価語をほどこ

B または C から一つ選び、次の三つを含む二～三文へ言い換えてください。

- ・ 実際に起きたこと
- ・ 話し手にありうる感情
- ・ 話し手が望んでいたこと

選んだもの：_____

正答は一つではありません。本文にない相手の意図を断定せず、感情と願いが場面に合っていれば成立します。

小さなまとめ

「冷たい」「無責任」「勝手」は、感情そのものより、相手や行動への評価です。評価を禁じず、「そう感じた」を残したまま背後の感情や願いを開くと、伝えたいことが具体的になります。

第十一回 短い返事が気になった

立ち止まる回

職場で、林さんは来週の説明会の案内を作っています。修正版を共有したあと、担当の木戸さんへメッセージを送りました。

午後三時三十二分 林 「来週の説明会の案内、修正版を共有しました。見出しと申込方法を直しています。今日中に一度、確認いただけそうでしょうか。」

午後三時四十一分 木戸 「見ました。明日話しましょう。」

一 第一印象を残す

木戸さんの返事を見て、最初に浮かびやすい受け取りを一つ選んでください。ここには正答はありません。

- ア 案内に問題があるのかもしれない
- イ 木戸さんは急いでいるだけかもしれない
- ウ 少し冷たい、または怒っているように感じる
- エ 特に気にならない
- オ ほかの受け取りが浮かんだ

選んだもの：_____

その印象につながった言葉や、書かれていなかったことを一つ残してください。

二 実際に書かれていること

木戸さんの返事から、そのまま抜き出せる二つの内容を書いてください。

(1) _____

(2) _____

三 返事に書かれていないこと

次のうち、この返事には書かれていないものを一つ選んでください。

- ア 案内のどこを直す必要があるか
- イ 木戸さんが案内を見たこと
- ウ 話すのが明日であること
- エ 返事を書いた人が木戸さんであること

答え：_____

四 事実と推測を分ける

メッセージから確認できることには「事実」、林さんが補って読んだことには「推測」と書いてください。

内容	事実／推測
(1) 返事は、林さんの送信から九分後だった	
(2) 木戸さんは「見ました」と書いた	
(3) 木戸さんは「明日話しましょう」と書いた	
(4) 案内には重大な問題がある	
(5) 木戸さんは林さんに怒っている	
(6) 木戸さんは、今日の作業を止めてほしいと思っている	
(7) 返事には、修正箇所や理由の説明がない	
(8) 明日、林さんは必ず厳しく叱られる	

五 推測を入れずに、状況を書く

時刻と言葉を用いて、このやり取りを二文で説明してください。

六 推測と感情は、同じではない

林さんが不安になった場合の考え方として、最も適切なものを一つ選んでください。

ア 怒っていると確かめられないなら、林さんが不安になった事実も残らない

イ 林さんが不安になったことは残るが、木戸さんが怒っていることまでは確定しない

ウ 林さんの不安が強いほど、案内に重大な問題がある可能性は高いと判断できる

エ 返事に事実だけが書かれていれば、その短さから不安を感じる理由はない

答え：_____

七 ほかにありうる説明

木戸さんの短い返事について、次の説明のうち、メッセージだけでは否定できないものをすべて選んでください。「ありうる」は「最も可能性が高い」と同じではありません。

ア 会議の直前で、詳しい返事を書く時間がなかった
 イ 修正点が一つあり、文章より口頭で話すほうが早いと考えた
 ウ 内容に大きな懸念があり、明日まとめて話そうとした
 エ 木戸さんは、ふだんから短い返事を書くことが多い
 オ 案内を一度も開かず、「見ました」と書いたことが確定した
 答え：_____

八 何が分かれば、読みを動かせるか

次の情報があると、どの説明を考えやすくなるかを書いてください。複数の結びつきが成立します。

追加の情報	動きやすくなる説明
木戸さんの午後三時台の予定	
木戸さんが普段送る返事の長さ	
案内本文と申込フォームの内容	
翌日、木戸さんが説明したこと	

九 まだ分からない、と置く

この時点で、林さんが木戸さんの感情について確かに言えることを一文で書いてください。

十 尋ね方は、目的で変わる

林さんが返す言葉を比べます。

- A 「何か怒っているので、明日話すことにしたのでしょうか。」
- B 「案内に問題があるため、明日話すということでしょうか。」
- C 「承知しました。今日中に直す箇所があれば、そこだけ教えてください。」
- D 「承知しました。明日は何時ごろお話しできそうでしょうか。」

(1) 今日中に直すべき箇所があるかを確かめたい

目的に最も合うものを一つ選んでください。

答え：_____

(2) 急ぎの修正はなく、明日の時間だけ決めたい

目的に最も合うものを一つ選んでください。

答え：_____

(3) Aの尋ね方で起きうること

Aは、まだ確かめていない相手の感情をどのように置いていますか。

十一 短い返答を作る

林さんは、今日中に必要な修正があるかだけを知りたいとします。木戸さんが答えやすい一〜二文を作ってください。怒っているかどうかを直接尋ねる必要はありません。

複数の答えが成立します。返事を受け取ったことと、いま確かめたい一点が分かれば成立します。

十二 翌日、分かったこと

翌朝、木戸さんは次のように話しました。

木戸 「昨日は会議の直前で、詳しく書けませんでした。申込締切が、案内本文とフォームで違っていたので、そこは今日直しましょう。ほかは大きな問題ありません。」

この説明によって確かめられたことを、次からすべて選んでください。

- ア 木戸さんは返事を書いたとき、会議の直前だった
- イ 案内本文とフォームの申込締切が一致していなかった
- ウ その一点以外には、大きな問題はないと木戸さんは説明した
- エ 木戸さんは、返事を書いた時点で林さんの仕事ぶりに腹を立てていた
- オ 木戸さんは、案内の修正全体を林さんだけに任せるつもりだった

答え：_____

十三 最初の受け取りを振り返る

最初に選んだ印象は、説明を聞いたあとでどう動きましたか。近いものを一つ選んでください。正答はありません。

- ア かなり変わった
- イ 一部は残り、一部は変わった
- ウ あまり変わらなかった
- エ まだ決められない

選んだもの：_____

書ける場合は、残ったこと、変わったことのどちらかを一つだけ記してください。

十四 不安になったことは「誤り」だったか

最も適切なものを一つ選んでください。

- ア 怒りが確認されなかった以上、不安を感じたことも読み違いとして消すべきだ
 イ 修正点が実際にあった以上、木戸さんの怒りや失望もあったと考えるのが自然だ
 ウ 短い返事に不安を感じた経験は残るが、相手の感情についての推測とは分けられる
 エ 翌日の理由が分かれば、最初の返事の短さを振り返る意味はなくなる
 答え：_____

十五 五つの動きを一度つなぐ

この回の流れ ① 第一印象を残す → ② 実際に書かれていることを確かめる
 → ③ 自分が補って読んだことを分ける → ④ ほかの説明を考える → ⑤ 必要なら、確かめる言葉を作る

次のA～Cから、その日の自分に合う距離を一つ選んでください。

A 文章の外から考える

翌日の説明をまだ聞いていない林さんとして、木戸さんへ送る一～二文を書いてください。

B 暮らしへ少し近づける

気になったことのある短い返事の一つ思い出せる場合だけ取り組みます。人名や事情は書かず、「実際の言葉」「最初の受け取り」「ほかにありうる説明」を短く記してください。

実際の言葉	
最初の受け取り	
ほかの説明	

C 今日は通り過ぎる

五つの動きのうち、覚えておきたい番号を一つ丸で囲みます。文章は書きません。
 番号：_____

小さなまとめ

短い返事に不安になったり冷たく感じたりしても、未熟さの証明ではありません。第一印象を残し、書かれたことへ戻り、相手の怒りや失望を決めず、必要なら確かめる。その間に受け取り方を動かす余地が生まれます。

第十二回 違和感を急いで消さない

標準の回

裕子は、読書会の友人・真帆に随筆集を貸していました。次の日曜日の読書会で、別の人にも貸す予定があります。

五月八日 裕子 「貸している随筆集、次の日曜の読書会に持ってきてもらえる？
そのあと伊藤さんに貸したいんだ。」

五月八日 真帆 「了解。鞆に入れておくね。」

次の日曜日 真帆 「あ、持ってこなかった。いつでもいいって言っていたと思ってた。ごめん。」

裕子は以前のメッセージを見返し、説明がうまくかみ合わないような違和感を覚えしました。

一 まず受け取る

この場面を読んだ第一印象に、近いものを一つ選んでください。正答はありません。

ア 真帆は、単に忘れたのだと思う

イ 真帆の説明は、前のメッセージとずれていると思う

ウ 裕子が気にするほどのことではないと思う

エ 理由はまだ分からないが、確かめたい点はあると思う

オ ほかのことを感じた

選んだもの：_____

二 違和感の生まれた箇所

裕子の違和感に最も直接つながった食い違いを、一つ選んでください。

ア 随筆集の題名がなく、真帆がどの本を指すか確かめられなかったこと

イ 裕子と真帆が同じ読書会に参加し、渡す相手も知っていたこと

ウ 「次の日曜に」という依頼と、「いつでもいいと思った」という説明の食い違い

エ 伊藤さんが本を読みたい理由を、裕子が詳しく説明していなかったこと

答え：_____

三 二つの言葉を並べる

食い違っている二つの言葉を、メッセージから短く抜き出してください。

前のメッセージ：_____

当日の説明：_____

四 確かな情報と、まだ決まらない情報

次の内容を、「確かめられること」と「まだ決まらないこと」に分けてください。

内容	確か／未確定
(1) 裕子は、次の日曜に本を持ってきてほしいと書いた	
(2) 真帆は「了解。鞆に入れておくね」と返した	
(3) 真帆は当日、本を持ってこなかった	
(4) 真帆は、返す約束を意図的に破った	
(5) 真帆は、本を返すことを完全に忘れていた	
(6) 真帆は「いつでもいいと思っていた」と説明した	
(7) 真帆は、その場を取り繕うために嘘をついた	
(8) 真帆は裕子との約束を大切にしていない	

五 いま言えるところまで書く

この場面を、確かなことと未確定なことが分かる二～三文にしてください。

例と同じ言葉でなくてかまいません。前の記録、当日の出来事、理由はまだ分からないことが区別されていれば成立します。

六 違和感、何を示しているか

最も適切なものを一つ選んでください。

ア 説明が合わないため、真帆が事実と違う説明をしたと判断してよい

イ 理由を決められないうちは、裕子の違和感も根拠がないとして退けるべきだ

ウ 二つの説明が合わない箇所を、次に何を確かめるか考える手がかりにできる

エ 約束に違和感が生じたら、今後の貸し借りも続けない方が安全である

答え：_____

七 次の一步を比べる

この場ですぐ取る行動として、確かめたいことに最も近いものを一つ選んでください。

- ア 悪気の証拠はないので、前の記録との食い違いも考えないことにする
 イ 前の記録を示し、「嘘をついたのか」と理由を確かめる前に問いたです
 ウ 前の記録を一緒に見て、どう覚えていたかと、いつ返せるかを尋ねる
 エ 理由は確かめず、今後は本を貸さないとその場で決めて関係を守る
 答え：_____

八 二種類の問いを作る

(1) 説明の食い違いを確かめる問い

前のメッセージを示しつつ、真帆がどう覚えていたかを尋ねる一文を書いてください。

(2) これからの行動を確かめる問い

本をいつ返せるか、具体的に尋ねる一文を書いてください。

どちらも正答は一つではありません。相手の意図を先に決めず、尋ねたい点が明確であれば成立します。

九 違和感を、手がかりとして置く

登場人物について、四つを整理してください。個人的な経験を書く必要はありません。

確かめられること	
合わないと感じた箇所	
まだ分からないこと	
次に尋ねたいこと／取りうる行動	

十 見方を増やすことと、感覚を消すこと

第二部の結びとして、最も適切なものを一つ選んでください。

- ア 別の可能性を考えたなら、最初の違和感は誤りだったとして手放す
 イ 違和感が残るなら、相手の説明に問題があることも事実として扱う

ウ 違和感を残しつつ、確かなことと未確定なことを分け、次に確かめる点を選ぶ
エ 証拠がそろうまでは、自分の境界や今後の行動についても決めずに待つ
答え：_____

小さなまとめ

違和感は、相手の悪意を証明するものでも、急いで消すべき思い込みでもありません。言葉と出来事のどこが合わなかったのかを見れば、次に確かめたいことが見えてきます。見方を増やすことは、自分の感覚を手放すことではありません。

第三部

人との間に言葉を置く

便利な定型文を覚えるだけでなく、相手との間へ言葉を置く順序、時機、距離を考えます。

第十三回 聞いてほしい？ 意見がほしい？

第十四回 頼むとき、何を伝えるか

第十五回 断るとき、どこまで話すか

第十六回 「分かる」と「賛成」は同じ？

第十七回 正しいことを、いつ言うか

第十八回 異なる意見を隣に置く

問題編

第十三回 聞いてほしい？ 意見がほしい？

小さな稽古

莉奈は、家で兄の颯太に、仕事であったことを話しました。

莉奈「今日の説明会で質問にうまく答えられなくて。準備したのに、まだ引っかかっている。」

一 返答の中心を見分ける

次の返答の中心を、「聴く・共感・助言・問題解決」から一つずつ選んでください。実際には、二つ以上の働きが重なることもあります。

返答	主な働き
(1) 「それは悔しさが残るね。」	
(2) 「どの質問が、いちばん引っかかっている？」	
(3) 「次は想定質問を先に書き出すといいと思う。」	
(4) 「よければ、想定質問を一緒に作ろうか。」	

二 いま求めているもの

本文から言えることとして、最も適切なものを一つ選んでください。

ア まず気持ちを聴いてほしい イ すぐ具体的な助言がほしい

ウ その場で解決策を決めたい エ 求める返答はまだ定まっていない

答え：_____

三 決めつけずに返す

話を受け取りながら、返答の方向を決めつけていないものを選んでください。

ア 「引っかかっているんだね。もう少し話す？ それとも、意見も聞きたい？」

イ 「準備の仕方が足りなかったのかもね。次は質問集を作るとよさそうだよ。」

ウ 「うまくいかないこともあるよ。今回は気にせず、次へ進んだ方がいい。」

エ 「大丈夫だよ。次はきつとうまくいくから、今日はもう考えなくていいよ。」

答え：_____

朋恵 「引越しの見積りが二社でずいぶん違うんだ。どこを見ればいいか迷ってる。」

美緒 「今日は、話を聞く方がいい？ それとも一緒に比べようか。」

朋恵 「一緒に見てほしい。追加料金の条件がよく分からなくて。」

四 希望が分かったあと

この会話のあと、美緒がすることとして最も場面に合うものを一つ選んでください。

ア まず迷った経緯を聞き、朋恵が落ち着いてから見積書を見る

イ 二社の条件を並べ、追加料金が生じる場合を一緒に確かめる

ウ 安い方を候補とし、契約前に追加料金だけを確認する

エ どちらも一長一短だと伝え、最終判断は朋恵に任せて話を終える

答え：_____

五 相談する側から希望を伝える

次の言い出し方が主に求めているものを、ア～エから一つずつ選んでください。

(1) 「今日は結論を出さなくていいから、まず聞いてほしい。」

(2) 「私の見落としがあれば、意見を聞かせてほしい。」

(3) 「二つの案を、一緒に比べてもらえる？」

(4) 「自分でも何を求めているか分からないけれど、少し話してもいい？」

ア まず話を聴いてほしい イ 見落としへの意見がほしい

ウ 二つの案を一緒に比べてほしい エ 求める返答はまだ定まっていない

答え：(1) _____ (2) _____ (3) _____ (4) _____

六 無理のない言い出し方を作る

架空の場面です。仕事を続けるか迷っている人が、今日は結論を出さず、家族に話しながら考えを整理したいと思っています。相談の始めの一言を書いてください。複数の答えが成立します。

小さなまとめ

相談への返答は、聴く・共感する・助言する・一緒に動く、のどれか一つだけとは限りません。いま何が受け取れそうかを確認し、途中で方向を変えることもできます。

第十四回 頼むとき、何を伝えるか

標準の回

職場で、同僚に資料の確認を頼みます。元の文と手元の情報を読みます。

「すみません。この資料、なるべく早めに見てもらえますか。」

送り手の手元には、次の情報があります。

- ・案内文は三ページである
- ・日付と申込先に誤りがないかを確認してほしい
- ・木曜日の午後三時までに確認したい
- ・金曜日の会議で使う
- ・難しい場合は、確認できる範囲や時刻を相談してよい
- ・案内文は、送り手自身が一度読み返している

一 相手が判断するための情報

元の一文へ加えるとよい情報を、すべて選んでください。

ア 確認箇所 イ 期限 ウ 分量

エ 期限の理由 オ 送り手が読み返した回数 カ 難しい場合の返し方

答え：_____

二 長さではなく、中身を比べる

同じ依頼を整えた四つの文です。相手が内容と負担をつかみやすく、相談の余地もあるものを一つ選んでください。

ア 「三ページの案内文です。内容におかしな点がないか、お手すきの時間に見ていただけると助かります。」

イ 「金曜会議用の案内文三ページです。日付と申込先を木曜三時までに確認できますか。難しければ相談してください。」

ウ 「金曜の会議で使う三ページの案内文です。日付と申込先を、木曜三時までに必ず確認してください。」

エ 「案内文を作るまでの経緯を先に説明します。そのうえで、可能なら木曜三時までに目を通してください。」

答え：_____

地域の催しの準備で、関さんに会場設営を頼みます。依頼する側は、次の情報を持っています。

- ア 日曜日の午前九時から九時半までに行う
- イ 倉庫の折り畳み椅子二十脚を、集会室へ運ぶ
- ウ 午前十時から企画会議が始まる
- エ もう一人が加わり、作業は二十分ほどの見込みである
- オ 難しい場合は、金曜日までに知らせてもらう

- カ 昨年の催しのポスターは青色だった
キ 椅子を購入したのは八年前である

三 必要な情報を残す

関さんが引き受けられるか判断し、当日動くために必要な情報を五つ選んでください。

答え：____・____・____・____・____

四 地域での依頼を書く

三で選んだ情報を使い、関さんへの依頼を書いてください。すべてを一文に詰め込む必要はありません。何を、いつ、どの程度行うかと、難しい場合の返し方が分かれば成立します。

依頼文には複数の答えが成立します。丁寧語の多さではなく、相手が判断できる情報があるかを見ます。

同居する圭と亜希は、家事をできる方が補い合っています。圭は翌朝六時半に家を出るため、次のように書きました。亜希の翌朝の予定は、まだ聞いていません。

圭「明日の資源ごみ、お願いできると助かる。ちょっと予定があつて。」

五 遠回しにしすぎた依頼

この文では分かりにくいことを、次からすべて選んでください。

- ア 何を出してほしいのか
イ いつまでに出す必要があるのか
ウ 亜希が引き受けられるかどうか
エ 圭が亜希を信頼しているかどうか

答え：_____

圭の手元には、「玄関横の紙袋二つを、午前八時までに集積所へ出してほしい」という情報があります。次のうち、依頼の内容を明確にしながら、亜希が断ったり相談したりできるものを一つ選んでください。

- ア 「明朝、玄関横の紙袋二つを八時までに集積所へ出せる？ 難しければ今夜教えて。」
イ 「明日は資源ごみの日だね。いつものことだから、紙袋二つを出しておいてくれるよね。」
ウ 「私は六時半に出るので、玄関横の紙袋二つは必ず八時までに集積所へ出してください。」
エ 「明日の朝、資源ごみを出す用事があるんだけど、時間があれば手伝ってもらえると助かる。」

答え：_____

六 共有していることは省ける

もし圭と亜希が、前夜に「明日は亜希が資源ごみを出す」とすでに決め、紙袋の場所も一緒に確かめていたなら、翌朝の短い確認として最も自然なものを一つ選んでください。

ア 「昨日決めた紙袋二つ、八時までにお願ひね。難しくなったら教えて。」

イ 「昨日決めた資源ごみについて、念のため場所と出し方を最初から説明するね。」

ウ 「昨日決めたことなので、予定が変わっても連絡しなくて大丈夫だよ。」

エ 「昨日引き受けてもらったので、難しくなっても別の方法へ変えることはできないよ。」

答え：_____

文化センターの広報担当が、初めて一緒に仕事をする森さんへ、会報の確認を頼みます。使える情報を整理します。

- ・四月号の二ページ分を確認してほしい
- ・開催日と申込先の電話番号を見てほしい
- ・月曜日の正午までに返してほしい
- ・火曜日に印刷所へ渡す
- ・難しい場合は、確認できる範囲と返せる時刻を知らせてほしい

七 依頼の骨組みを作る

項目	入れる内容
何を・どの程度	
どこを見るか	
いつまで	
期限の理由	
難しい場合	

八 関係に応じた依頼を書く

七の内容を使い、森さんへの依頼を五文以内で書いてください。複数の答えが成立します。

小さなまとめ

依頼を明確にすることは、命令を強くすることではありません。相手が内容と負担を見積もり、引き受ける・相談する・断るを選べるだけの情報を置くことです。

第十五回 断るとき、どこまで話すか

標準の回

友人から、土曜日の昼食に誘われました。誘われた人には、すでに外せない予定があります。四つの返答を比べます。

- A 「誘ってくれてありがとう。土曜日は予定があるので、今回は行けません。」
- B 「土曜日は、ちょっと難しいかもしれない。また分かったら連絡するね。」
- C 「土曜は家族の通院に付き添って、そのあと薬局と買い物へ行き、帰宅時間も読めないので行けません。」
- D 「土曜日は行けません。来週の水曜なら空いているけれど、どうかな。」

一 四つの断り方を比べる

次の問いに、A～D で答えてください。同じ記号を二度使ってもかまいません。

- (1) 今回参加できないという結論が、まだ確定していないように見えるもの。

答え：_____

- (2) 必要以上に私的な事情を詳しく説明しているもの。

答え：_____

- (3) 実際に会いたい気持ちがあり、来週水曜が確実に空いている場合に、代案として働くもの。

答え：_____

二 短い断りも成立する

A についての説明として最も適切なものを一つ選んでください。

- ア 理由を詳しく説明していないため、相手への配慮を欠く断り方である
- イ 結論と必要な範囲の理由があり、この場面では一つの断り方として成立する
- ウ 別の日の提案がないため、関係を続ける意思が伝わらない断り方である
- エ 断るときは、短くても謝罪と詳しい事情を一緒に示す必要がある

答え：_____

職場で、同僚から翌週の勤務を交代してほしいと頼まれました。頼まれた人には外せない私用がありますが、内容を職場で話したくはありません。

三 説明する範囲を選ぶ

返答として最も適切なものを一つ選んでください。

- ア 「その日は勤務を代われません。外せない予定があるため、今回は引き受けられません。」
- イ 「その日は予定があります。詳しく言えず申し訳ありませんが、私の事情を優先してください。」
- ウ 「家族の検査に付き添うため、病院名と予約時刻も含めて事情を説明します。」

エ 「その日は難しいと思いますが、当日の朝まで予定を調整してから返事をします。」

答え：_____

四 言わない部分を残す

この場面で、返答に必ず必要なものと、本人が説明するかどうかを選べるものを分けてください。

内容	必ず必要／自分で選べる
交代を引き受けられないという結論	
予定の詳しい内容	
勤務調整に必要な返答の時期	
私生活上の事情を示す書類	

五 短い返答を作る

同じ場面について、結論を明確にし、私的な事情を詳しく書かない返答を二～三文で作ってください。複数の答えが成立します。

断ること自体を謝り続ける必要はありません。相手に生じる調整への配慮を、一言添える形があります。

地域の催しで、土曜日の受付を頼まれました。引き受けられない人が、次の文を書きました。

「せっかく声をかけてくださったのに、本当に申し訳なく、私も何とかしたいとは思ったのですが、土曜の朝は親戚を駅まで迎えに行き、そのあと家の用事もいくつかあり、何時に戻れるか分からないので、今回は受付を引き受けられません。ご迷惑をおかけして本当にすみません。代わりの方が見つかることを心から願っています。」

六 余分な説明を見つける

この返答で、断るために中心となる内容を二つ選んでください。

ア 今回は受付を引き受けられない

イ 土曜の朝には外せない予定がある

- ウ 親戚を迎える駅の名前
エ 家の用事の一つ一つの内容
オ 代わりの人が必ず見つかるという保証
答え：_____

七 削って整える

六で選んだ中心を残し、二～三文の返答へ書き換えてください。過剰な謝罪や、実行する意思のない代案は加えません。複数の答えが成立します。

八 代案を置くかどうか

断りに代案を添えることが自然な場面を、次からすべて選んでください。書かれていないことを無理に約束しないものとします。

- ア 会議には出られないが、金曜までに意見を文書で送れる
イ 誘いを断りたいが、次に会える日も、会いたいかどうかはまだ分からない
ウ ポスター全体は作れないが、誤字の確認一ページ分なら引き受けられる
エ 紹介できる人を知らないが、「誰か紹介します」と書く

答え：_____

断る場面では、関係と、相手が次に何を決める必要があるかによって、必要な明確さが変わります。

九 待たせる返答を見つける

次の三つのうち、本人はすでに断ると決めているのに、相手が返事を待ち続ける可能性が高いものを一つ選んでください。

- A 友人へ 「今回は行けません。誘ってくれてありがとうございます。」
B 同僚へ 「本日中の確認作業は引き受けられません。」
C 地域の担当者へ 「前向きに検討します。もう少し待ってください。」

答え：_____

十 関係の異なる場面で書く

次のア～ウから一つ選び、二～三文の断りを書いてください。個人的な実例を書く必要はありません。複数の答えが成立します。

- ア 友人からの日帰り旅行の誘い。今回は行けませんが、別の日はまだ分からない。
イ 同僚から今日中の資料作成を頼まれた。今日は引き受けられない。
ウ 地域の係を半年間頼まれた。継続的な担当は引き受けられない。

選んだもの：_____

小さなまとめ

断りは、関係を壊すための言葉ではなく、自分が引き受けられる範囲を示す言葉です。結論を明確にしても、理由のすべてを差し出す必要はありません。

第十六回 「分かる」と「賛成」は同じ？

小さな稽古

結衣と直人は、週末の外出について話しています。

結衣 「行き先は、その日の気分で決める方が楽しいと思う。」

直人 「僕は前日までに決めたい。土曜は混むし、待ち時間が読めないと落ち着かないんだ。」

結衣 「混むのが心配なのは分かる。でも、全部決めると窮屈に感じる。」

この回では、似ている言葉を、次のように分けて考えます。実際の会話では重なることもあります。

言葉	ここでの中心
理解	相手の言っている内容や理由をつかむ
共感	相手の感情や感覚に近づく
同意	相手の述べた事実認識や考えを、自分もそうだと認める
賛成	相手の提案や立場を支持する

一 四つを区別する

次の返答を、「理解・共感・同意・賛成」から一つずつ選んでください。同じ言葉は一度ずつ使います。

- (1) 「混むと待ち時間が増える、という理由は分かる。」
- (2) 「予定が決まらなると落ち着かない感じは、想像できる。」
- (3) 「土曜日は混みやすい、という点は私もそう思う。」
- (4) 「では、行き先は前日までに決めよう。」

答え：(1) _____ (2) _____ (3) _____ (4) _____

二 一語だけでは決まらない

直人が「分かるよ」とだけ返した場合、本文から確定できることを一つ選んでください。

- ア 結衣が混雑を心配する理由まで、直人は理解した
 イ 結衣の窮屈に感じる気持ちに、直人も共感した
 ウ 行き先を当日に決める案へ、直人は賛成した
 エ 「分かる」が何を指すかは、この一語だけでは確定できない

答え：_____

三 理解と異論を同じ返答に置く

結衣の立場を消さず、直人の理由も受け取っている返答として最も適切なものを一つ選んでください。

ア 「混雑が心配なのは分かる。では、行き先も時間も前日までに決めよう。」

イ 「混雑が気になるのは分かるけれど、予定を決めると楽しさがなくなるよ。」

ウ 「混雑が気になる理由は分かる。私は一つに決めず、候補を二つ考えておきたい。」

エ 「どちらにも理由があるから、私は希望を言わずに合わせるよ。」

答え：_____

四 別の場面で二つを併記する

職場の休憩室について、甲は「照明を明るくしたい。資料を読む人がいるから」と言い、乙は「今の落ち着いた明るさを残したい」と考えています。乙の立場から、甲の理由への理解と、自分の異なる立場を二～三文で書いてください。複数の答えが成立します。

五 尊重は賛成と同じか

相手を尊重することについて、最も適切なものを一つ選んでください。

ア 相手を尊重するなら、提案に賛成する形で自分の異論を控えるとよい

イ 自分の立場を明確にするなら、相手の理由の理解は後回しでよい

ウ 相手の理由を理解しながら、自分の異なる立場も明確に述べられる

エ 関係を守るには、互いの違いを結論にせず曖昧にするとよい

答え：_____

小さなまとめ

「分かる」は、理解・共感・同意・賛成のどこを指すかで意味が変わります。相手の理由を受け取ることと、自分の立場を手放すことは別です。

第十七回 正しいことを、いつ言うか

立ち止まる回

香奈は、地域センターで六十分の初心者向けスマートフォン教室を担当しました。参加者は十二人でした。事前の予定と当日の記録は、次のとおりです。

予定 導入五分／説明二十五分／個別練習二十五分／質問五分
 当日 映写機の接続に八分かかった。説明の途中にも質問が出た。
 終了 予定より十八分遅れた。二人が終了前に退室した。

翌日、香奈は、似た教室を担当したことのある明に話しました。

香奈「昨日の教室、時間をかなり延ばしてしまった。途中で帰った人もいたし、せっかく準備したのに、うまく進められなかった感じが残ってる。来週までに報告と次回案を出さなきゃいけないけど、今日はまず、少し聞いてもらってもいい？」

一 最初に受け取ったもの

香奈の言葉を読んで、最初に気になった箇所を一つ書いてください。正答はありません。

二 記録から確かめられること

記録から確かめられることを、次からすべて選んでください。

- ア 事前の予定は、六十分をすべて使う組み方だった
- イ 映写機を接続する作業に八分かかった
- ウ 途中で退室した二人は、進行の遅れに不満を感じていた
- エ 説明の途中にも、参加者から質問が出た
- オ 香奈は、参加者の質問に十分答えられなかった
- カ 教室の終了は、予定より十八分遅れた

答え：_____

三 香奈が話したことを確かめる

次の内容を、「確かめられること」と「まだ決まらないこと」に分けてください。

内容	確か／未確定
(1) 教室は予定より十八分遅れて終わった	
(2) 退室した二人は、香奈に腹を立てていた	

内容	確か／未確定
(3) 香奈は、今日はまず少し聞いてほしいと頼んだ	
(4) 香奈は、今後も助言を受けたくない	
(5) 報告と次回案は来週までに必要である	
(6) 遅れの原因は、香奈の準備不足だけである	

四 いま求めているものを読む

香奈が、少なくとも会話の初めに求めているものとして最も適切なものを一つ選んでください。

- ア 原因を一つに決めてもらうこと
- イ 次回案を今すぐ完成させてもらうこと
- ウ まず、昨日のことを少し聞いてもらうこと
- エ 責任がないと証明してもらうこと

答え：_____

ただし、「まず聞いてほしい」は、「助言は今後も一切いらない」と同じではありません。香奈自身も、来週までに次回案が必要だと話しています。

五 話されていない希望を決めない

この時点で、本文からまだ決められないことを一つ書いてください。複数の答えが成立します。

六 指摘の内容そのものを確かめる

次の五つを、「事実に沿う指摘・改善案として成立・根拠のない評価」のいずれかに分けてください。ここでは、いつ言うかはまだ考えません。

内容	分類
(1) 予定は六十分をすべて使い、移動や遅れの余白がなかった	
(2) 映写機の接続にかかった八分も、終了時刻に影響した	

内容	分類
(3) 質問した参加者が、教室を失敗させた	
(4) 香奈は、人前で教える仕事に向いていない	
(5) 次回は内容を減らすか、質問時間に余白を置く方法が考えられる	

七 正しさと時機を分ける

(1) や (5) についての考え方として、最も適切なものを一つ選んでください。

ア 内容が妥当なら、相手が何を求めているも最初に言うべきである

イ 相手が落ち込む可能性があるなら、今後と言ってはいけない

ウ 内容の妥当性と、今その順序で言うことの適切さは、別々に考えられる

エ 時機を考えると、問題点をなかったことにすることである

答え：_____

八 原因を一つにしない

今回の遅れについて、「内容を詰めたことだけが原因だ」とは言い切れない理由を、記録に沿って一つ書いてください。複数の答えが成立します。

九 返答の順序を比べる

香奈の言葉に対する、明の四つの返答を比べます。

A 「準備した分、うまくいかなかった感じが残るよね。まず昨日のことを聞かせて。」

B 「予定を詰めたことが原因だと思う。次は説明を減らし、質問時間を増やそう。」

C 「今日は落ち込まなくていいよ。参加者もきっと気にしていないから。」

D 「昨日の流れを聞かせて。次回案を考える時期も、あとで一緒に決めよう。」

(1) 最初に、香奈の話を受け取っているものを二つ選んでください。

答え：____・____

(2) 記録からは確かめられない参加者の気持ちを、安心させるために決めているものを一つ選んでください。

答え：____

(3) 指摘と改善案を先に置き、香奈の「まず聞いてほしい」という希望を受け取っていないものを一つ選んでください。

答え：____

十 必要な内容を消さない返答

四つのうち、香奈の話を受け取りながら、後で次回案を考える可能性も残しているものを一つ選んでください。

答え：_____

十一 Bの指摘は、すべて誤りか

Bについての説明として最も適切なものを一つ選んでください。

ア 予定に余白がないという着眼には根拠があるが、原因を一つにして助言を先に置く

イ 改善点を先に述べたため、Bの内容はすべて相手への攻撃になっている

ウ 内容を減らす案はありうるが、今回の記録から考える根拠は示されていない

エ 助言に根拠があれば、相手が求める順序より先に述べても問題はない

答え：_____

十二 今・尋ねてから・後で・置けない

次の言葉や行動を、ア～エのいずれかに分けてください。同じ記号を何度使ってもかまいません。

ア 今、最初の返答に置ける

イ 香奈の希望を尋ねてから置ける

ウ 必要だが、後の段階で扱える

エ 根拠がなく、このままでは置けない

(1) 「準備した分、残るものがあるよね。」

(2) 「いまは聞く方がいい？ 事実の整理も一緒にする？」

(3) 予定に余白がなかった点を、次回案として検討する

(4) 参加者は全員、香奈に満足していたと伝える

(5) 報告書と次回案をいつ考えるか相談する

答え：(1) _____ (2) _____ (3) _____ (4) _____ (5) _____

十三 最初の返答を作る

香奈の話を受け取り、何を今話すかを確かめ、必要な検討を後へ残す返答を三～四文で書いてください。複数の答えが成立します。

「今は言わない」と「二度と言わない」は同じではありません。相手の反応を操作するのではなく、何をどの順序で置くかを選びます。

翌日、香奈は明に、もう一度話しかけました。

香奈「昨日は聞いてもらえて助かった。今日は次回案を見てほしい。時間内に収めるには、何を変えたらいいと思う？」

十四 時機が変わったことを読む

前日と比べて変わったこととして、最も適切なものを一つ選んでください。

ア 前日の教室が時間内に終わった イ 今日は次回案への意見を求めている

ウ 参加者がどう感じたか全員分が分かった エ 前日にあった問題点はもう扱わなくてよい

答え：_____

十五 助言が役立つ場面

明の返答として、記録に沿い、香奈が選んだり相談したりできるものを一つ選んでください。

ア 「内容を半分にすれば収まると思う。他の方法は考えず、削る箇所を決めよう。」

イ 「予定に余白がないので、説明を縮めるか質問時間を分けるか、現実的な方を一緒に考えよう。」

ウ 「前は予定を超えたから、次は別の人へ担当を替える案をまず検討した方がいい。」

エ 「昨日は話を聞いたから、今日は記録を振り返らず、新しい案だけ考えればいいよ。」

答え：_____

十六 必要な指摘を含む返答を書く

記録から確かめられる点を一つ示し、改善案を一つ以上置き、香奈が選べる余地を残す返答を三～四文で書いてください。複数の答えが成立します。

小さなまとめ

内容の正しさと、今その順序で言うことは別です。待つことは、必要な内容を捨てず、受け取れる時機を確かめる選択にもなります。

第十八回 異なる意見を隣に置く

標準の回

みなと交流館には、二十四席の多目的室があります。火曜日の午後六時から八時までの使い方について、話し合いが開かれました。確認できた情報は次のとおりです。

- ・直近四回の火曜夜は、一回平均十四人が利用した
- ・一人で読む・作業する人と、数人で話し合う人の両方がいた
- ・別室の静かな閲覧室は十二席で、四回のうち三回は満席だった
- ・「話し声で集中しにくい」という意見が四件あった
- ・「夜に話し合える場所を残してほしい」という意見が三件あった

水野さん 「火曜の夜だけは、多目的室も静かに使う時間にしたいです。閲覧室が満席のことが多く、集中できる時間があらかじめ分かれば利用しやすくなります。」

岡田さん 「会話できる使い方を残したいです。多目的室は交流にも使う部屋で、夜に数人で話せる別の場所は多くありません。声の大きさや席の分け方を工夫する方がよいと思います。」

一 まず、二つの意見を受け取る

いまの時点で近いと感じるものを一つ選んでください。正答はありません。

- ア 水野さんに近い
イ 岡田さんに近い
ウ どちらにも近い点がある
エ まだ決められない

答え：_____

二 共通する目的

二人に共通する目的として、最も適切なものを一つ選んでください。

- ア 多目的室を、さまざまな利用者が使いやすい場所にする
イ 火曜日の夜に利用する人の数を、今より少なくする
ウ 自分と異なる使い方を、多目的室では認めないようにする
エ 現在の使い方を変えず、これ以上の話し合いを行わない

答え：_____

三 事実と判断を分ける

次の文を、「事実として確認できること」と「意見・判断」に分けてください。

文	事実／判断
(1) 多目的室には二十四席ある	

文	事実／判断
(2) 一人で作業する利用者の方が重要である	
(3) 閲覧室は、直近四回のうち三回満席だった	
(4) 交流のため、火曜夜も会話を認めるべきである	
(5) 集中しにくいという意見が四件あった	
(6) 火曜夜を静かな時間にするのが、唯一公平である	

四 重視する点の違い

水野さんと岡田さんが、それぞれ重視している点を一つずつ書いてください。複数の答えが成立します。

水野さん：

岡田さん：

五 相手の意見を短くまとめる

どちらか一人を選び、その人の提案と理由を二文以内でまとめてください。賛成する必要はありません。複数の答えが成立します。

選んだ人： _____

岡田さんが、水野さんの意見に異論を述べるとします。次の四つを比べてください。

A 「静かに集中できる場所がほしい気持ちは分かります。ただ、多目的室は交流にも使うので、会話を禁じるのは行き過ぎだと思います。」

B 「集中できる時間を確保したい目的は理解できます。一方、火曜夜をすべて静かにすると話し合いの場所が減ります。私は会話できる時間も残したいです。」

C 「どちらにも理由はあるので、これ以上は比べず、静かな時間と会話の時間を一時間ずつにしましょう。」

D 「水野さんは一人で使う人だけを重視し、話し合う利用者の必要を考えていないのだと思います。」

六 相手を消さず、自分の立場を置く

水野さんの目的を受け取りながら、岡田さん自身の異論も明確にしているものを一つ選んでください。

答え：_____

七 言い方の問題を見分ける

A・C・Dの問題点を、次のア～ウから一つずつ選んでください。同じ記号は一度ずつ使います。

ア 合意していないのに、理由を見ず機械的な妥協へ進めている

イ 相手の意見を、「気持ち」だけへ狭めてから退けている

ウ 相手が実際に述べていない意図を決めつけている

答え：A_____ C_____ D_____

八 打ち消す言葉を書き換える

次の一文を、水野さんの必要を認めながら、岡田さんの立場も明確になるように書き換えてください。複数の答えが成立します。

「静かにしたい人は、多目的室の目的を分かっている。」

九 二つの意見を踏まえて書く

水野さん・岡田さんの意見を踏まえ、あなたの立場を四～六文で書いてください。次の四点を含めます。架空の会議について考えればよく、自分の地域の経験を書く必要はありません。複数の答えが成立します。

- ① 二人に共通する目的
- ② 自分と異なる側が重視する点
- ③ 自分が支持する立場と理由
- ④ まだ確かめたいこと、または残る懸念

十 合意しないまま記録する

話し合いの記録として最も適切なものを一つ選んでください。

ア 「火曜夜を静かな時間にすることで全員が合意し、次回から実施することになった。」

イ 「静かな利用と会話できる利用の意見が出た。目的は共通し、結論は次回へ持ち越した。」

ウ 「双方とも使いやすくしたい点で一致したため、利用方法の違いは検討しなかった。」

エ 「意見が分かれたため、共通目的だけを記録し、それぞれの理由は省いた。」

答え：_____

小さなまとめ

異論は、相手の言葉を消さずに置けます。一致する目的と異なる判断を残せば、合意に至らなくても考え続けられます。

第四部

自分の言葉を育てる

これまでの区別を用い、経験、感覚、考えに無理のない輪郭を与え、必要なら言葉を選び直します。

第十九回 思い出は、どこから始まる？

第二十回 「好き」の理由は、あとから見える

第二十一回 借りてきた言葉、自分の言葉

第二十二回 まだ分からないことを書く

第二十三回 削ると見えるもの

第二十四回 自分の言葉で、小さく結ぶ

問題編

第十九回 思い出は、どこから始まる？

標準の回

同じ経験でも、文章の入口は一つではありません。初めて陶芸教室へ行った日のことを、四つの箇所から書き始めています。

書き出し	最初に置かれたもの
A 先月、私は友人に誘われ、初めて陶芸教室に参加した。	出来事の説明
B 机の上の土は、切り分けた羊羹のように四角かった。	目に入った物
C 「力を抜く方が、形は立ちます」と講師が言った。	短い言葉
D 親指を押すたび、器の縁が片側だけ低くなった。	身体の動き

一 まず、入口を受け取る

続きが気になるものを一つ選び、最初に目が向いた言葉を一つ書いてください。正答はありません。

選んだもの：_____ 目が向いた言葉：_____

二 どこへ光が当たるか

四つの書き出しの働きとして近いものを、A～D から一つずつ選んでください。

- (1) 経験全体の説明へ入りやすい。 (2) 講師の言葉を中心にしやすい。
 (3) 土の見え方へ目が向く。 (4) 作り手の手の動きへ目が向く。

答え：(1) _____ (2) _____ (3) _____ (4) _____

会話、物、動きのどれかから始めればよい、という決まりではありません。入口は、その経験のどこを最初に見せるかという選択です。

三 入口が決めること、決めないこと

書き出しについての説明として適切なものを、すべて選んでください。

- ア A は出来事を説明しているので、文章の入口としては使えない。
 イ D は、少なくとも最初は、手の動きと崩れる縁へ読者の目を向ける。
 ウ B から始めた文章は、最後まで土の形だけを書かなければならない。
 エ C は講師の言葉を入口にできるが、その後で別の場面へ移ることもできる。

答え：_____

四 要約から、一場面を選ぶ

初めて陶芸を体験した。難しいところもあったが、最後には楽しかった。

この要約を長く説明する代わりに、一場面へ近づけます。使える情報は次のとおりです。

- ・土は冷たかった
- ・回転台はゆっくり回った
- ・器の縁が片側だけ下がった
- ・講師が湿らせた海綿を渡した
- ・できた器は少しゆがんでいた

場面を作る細部として使えるものを二つ選んでください。どの組合せにも、それに合う文章を作れます。

選んだもの：_____・_____

五 一場面へ書き換える

四で選んだ情報を用い、二～四文で書いてください。「楽しかった」を必ず入れる必要はありません。複数の答えが成立します。

具体的にすることは、情報を全部足すことではありません。中心にしたい一場面と、その場面を見せる細部を選びます。

次は、地域農園の収穫日に起きた架空の場面です。

木箱に赤いトマトと青いトマトが並んでいる。午後五時の鐘が鳴る。

手袋の親指に赤い汁がつく。隣の人が「小さい方が甘いこともあります」と言う。

作業を終えた人が、木箱を軒下へ運ぶ。

六 異なる入口を二つ作る

同じ場面から、入口の異なる書き出しを二つ作ってください。出来事の説明、物、言葉、音、動きなど、どこから選んでもかまいません。解答は一つではありません。

書き出し一

この入口で最初に見せたいもの：_____

書き出し二

この入口で最初に見せたいもの：_____

七 二つを比べる

どちらか一つを選び、もう一方と比べて、文章の中心がどう見えそうかを書いてください。

選んだもの：_____

八 自分との距離を選んで試す

次の A～C から一つ選びます。自分自身の思い出を書かなくても、この課題を終えられます。

A 自分の小さな経験——道を一本間違えた、初めて道具を使った、予定より早く着いた、など。

B 架空の経験——初めて降りたバス停で、帰りの時刻表を探した人。

C この回の陶芸教室または地域農園の場面。

選んだもの：_____

まず、使えそうなものを三つだけ拾います。すべてを使う必要はありません。

場面・時点	物・音・言葉・動き	まだ決めないこと

同じ経験について、入口を二つ試してください。

書き出し一

書き出し二

残したい方：_____ 理由：_____

小さなまとめ

思い出を書くとき、経験の全部を最初から説明する必要はありません。時点、物、言葉、音、動きのどこから入るかを選ぶと、その文章で残したいものが少しずつ見えてきます。

第二十回 「好き」の理由は、あとから見える

小さな稽古

同じ人が、夜十時ごろの台所について三通りに書きました。

A 私は、夜十時ごろの台所が好きだ。

B 洗い物が終わると、換気扇の低い音だけが残る。布巾を掛け、湯のみを伏せると、流しの銀色が少し広く見える。

C その時間なら電話が鳴ることが少なく、翌朝の弁当箱を並べても途中で手を止めずに済む。

一 最初に近いものを選ぶ

三つのうち、その人の「好き」の中身が最も伝わったものを選んでください。正答はありません。

選んだもの：_____ 気になった言葉：_____

二 何が見えたか

B・C から読み取れる好みの中身を、次から一つずつ選んでください。

ア 換気扇の音や、片づいた流しの見え方 イ 途中で手を止めず、作業を続けられること ウ 台所の広さや、設備にかかった費用

B：_____ C：_____

三 「好き」を一度置かずに見る

次から一つ選び、「好き」という言葉を使わず、形、音、手触り、使う動き、手入れのしやすさ、過ごし方などを二～三文で書いてください。

湯飲み／椅子／パン／散歩道／ボールペン／朝または夜の時間

選んだもの：_____

折り畳み傘を気に入っている二人の文章です。

文章一 濃い緑の布は、開くと光を少しだけ通す。雨粒が細かく当たると、頭の上で乾いた音が続く。

文章二 骨が八本あっても軽く、濡れたあとに布をまとめやすい。玄関の細い箱へ入るので、置き場所にも困らない。

四 二つの具体性を比べる

説明として最も適切なものを一つ選んでください。

ア 文章一は感覚を、文章二は実用性を述べており、自分の言葉なのは文章一だけである。

イ 文章一は見え方や音を、文章二は使いやすさを具体化し、どちらも好みを示している。

ウ 好みの理由を言葉にすると、感じたことより説明が優先され、自分の好みではなくなる。

エ 自分の言葉と言えるのは、珍しい比喻や他人が使わない表現を含む文章だけである。

答え：_____

五 「好き」を戻してみる

三で書いた文章のあとへ、「私は、こういうところが好きだ」に当たる一文を加えてください。同じ言葉を繰り返さず、短く結んでもかまいません。

六 あとから見えた理由

書く前には考えていなかった特徴や理由が見えたなら、一つだけ記してください。見えなかった場合は「まだ分からない」でもかまいません。

小さなまとめ

「好き」は、悪い言葉でも、取り除くべき曖昧語でもありません。一度その言葉を置かず、物や動きや便利さを見てみると、自分の「好き」が何を含んでいたかを、あとから言い足せることがあります。

第二十一回 借りてきた言葉、自分の言葉

標準の回

よく使われる表現には、短く広く届くという働きがあります。まず、小さな喫茶店の広告を読みます。

毎日に、小さな余白を。

朝七時から十時まで営業。六席。飲み物は持ち帰りもでき、注文から五分ほどで受け取れます。

一 標語の役割を読む

「毎日に、小さな余白を。」について、最も適切な説明を一つ選んでください。

ア 営業時間と席数をまとめ、利用条件を正確に伝える案内文である。

イ 店で過ごす時間の印象を、短く広く伝える標語である。

ウ 受け取り方が人によって異なるため、店の特徴を伝える役割は弱い。

エ ほかの店では使われていない表現なので、この店だけの価値を示している。

答え：_____

二 広く届く言葉と、判断する情報

初めて店へ行く人が、出勤前に利用できるか判断するために必要な情報を、すべて選んでください。

ア 営業時間 イ 受取時間の目安 ウ 標語が作られた時期 エ 持ち帰りの可否

答え：_____

三 残してよい決まり文句

広告についての考え方として、最も適切なものを一つ選んでください。

ア よく使われる表現は曖昧なので、広告では別の言葉へ直すべきである。

イ 標語が店の印象を伝えていれば、営業時間や利用条件は省いても判断できる。

ウ 標語で印象を伝えながら、行動に必要な具体的情報を別に置くことができる。

エ 広告は短いほど目に留まりやすいため、具体的な内容は少ない方がよい。

答え：_____

この回でいう「借りてきた言葉」は、不誠実な言葉という意味ではありません。共通の言葉を、自分が示したい範囲に合うか確かめます。

読書会へ初めて参加する人に向けた、自己紹介の下書きです。

私は、人とのつながりを大切にしながら、自分らしく成長していきたいと思っています。

書き手が実際に伝えたいことは、次の三点です。

- ・月に一度、地域の読書会へ参加している
- ・初参加の人が話しやすいよう、答えを急がず質問を二つほど用意する

- ・自分は多く話すより、人の話を聞く方が落ち着く

四 広く使える言葉の中身を確認する

元の一文だけでは、何を指すか見えにくい表現を二つ選んでください。

ア 人とのつながりを大切にする イ 地域の読書会へ月に一度参加する ウ
質問を二つほど用意する エ 自分らしく成長していく

答え：_____

五 書き手に合う表現を選ぶ

三点の情報に最も合う自己紹介を一つ選んでください。

ア 私は月に一度、地域の読書会へ参加しています。初参加の人にも積極的に話しかけ、誰より多く意見を伝えることを大切にしています。

イ 月に一度、地域の読書会へ参加しています。初参加の人には答えを急がず質問を二つ用意し、話すより人の話を聞く方を大切にしています。

ウ 月に一度、地域の読書会で言葉の海へ船を出します。初参加の人とともに成長の風をつかみ、人とのつながりを広げたいです。

エ 月に一度、地域の読書会へ参加しています。自分らしく成長するため、初参加の人には質問を二つし、幅広い意見を集めています。

答え：_____

六 決まり文句を残して具体化する

「人とのつながりを大切にしたい」を残し、その人にとって何をする事なのかが分かるよう、二～三文に直してください。複数の答えが成立します。

地域の連絡方法についての意見文です。

地域のつながりを大切にし、誰もが情報を得られる町にするため、充実した情報発信を目指すべきです。

書き手が言いたいのは、「行事の案内をウェブだけにせず、集会所の紙の掲示も残したい。掲示を見て予定を知る住民がいるから」ということでした。

七 言いたい範囲に近づける

書き手の意見に最も近いものを一つ選んでください。

ア 地域で人とのつながりを深めるため、紙とウェブで充実した案内を続けたい。

イ 行事はウェブだけでなく集会所にも紙で掲示したい。紙で予定を知る住民がいるからだ。

ウ 紙の掲示を中心に戻し、ウェブの案内は利用者が少ないため終了したい。

エ まだ使われていない新しい方法を選び、地域の情報発信を目立たせたい。

答え：_____

八 目的によって、残す言葉は変わる

次の二つの目的に合う文を、A・B から一つずつ選んでください。同じ文を二度使いません。

A 紙でもウェブでも、必要な人へ届く案内を。

B ウェブの案内に加え、集会所の紙の掲示を来年度も残す。掲示を見て予定を知る住民がいるためである。

(1) 短い標語として掲げる。 (2) 会議の提案内容として記録する。

答え：(1) _____ (2) _____

九 抽象語を使ってもよいとき

「地域のつながり」「充実した情報発信」のような表現を残しても意味が伝わりやすくなる条件を、一つ書いてください。複数の答えが成立します。

抽象的な言葉は、広い範囲をまとめるときに役立ちます。必要に応じて、何を指すかを近くに置きます。

職場での短い自己紹介を、本人が読み返しています。

失敗を恐れず、何事にも挑戦し、常に成長していきたいです。

本人は、この文を少し大きすぎると感じています。実際に心がけたいのは、「分からない点は早めに尋ねる」「引き受けた作業は期限までに終える」の二点です。

十 合わない表現を直す

本人の心がけに合うよう、二～三文へ直してください。目立つ表現を作る必要はありません。複数の答えが成立します。

十一 与えられた人の言葉を編集する

A・B から一つ選び、その人が示したい中身に合う二～四文を書いてください。広く使われる言葉を残しても、別の言葉へ直してもかまいません。最後に、残した／直した言葉と、その理由も記します。

A 修理店を選ぶ理由。「安心できる店」と書きたい。入口に段差がなく、修理前に費用の見込みを説明してくれる。

B 図書館での「充実した時間」。平日の朝は席が空き、調べ物の途中で二階の地図資料をすぐ確認できる。

選んだもの：_____

残した／直した言葉と理由：_____

小さなまとめ

自分の言葉は、誰も使ったことのない言葉ではありません。よく知られた表現も、自分が示したい範囲や経験に合えば使えます。合わないときは、禁止するのではなく、中身を足す、範囲を狭める、別の言葉へ動かすことができます。

第二十二回 まだ分からないことを書く

立ち止まる回

次の文章を読みます。結論を探す前に、並んでいる場面と言葉を確かめてください。

新しい窓

駅前の図書館が建て替えられ、五月に新しい建物が開いた。入口の段差はなくなり、通路は車椅子と人がすれ違える幅になった。南側の大きな窓から、午後の光が書架の端まで届いている。

古い図書館には、玄関まで三段の階段があった。棚と棚の間は狭く、夏は扇風機の風が届く席から埋まった。返却口へ本を落とすと、奥で鉄の板に当たる音がした。私は仕事帰りに何度も通ったが、使いやすい建物だったとは言いにくい。新しい図書館を見て、前より楽になったと思う。あの不便さへ戻してほしいとは思わない。

最初に新館で本を返した日、私は自動扉を出たあと、横断歩道を渡って旧館の前まで歩いた。建物は工事用の柵で囲まれ、壁から「市立図書館」の文字が外されていた。文字のあった場所だけ、周りより白かった。

なくなってすっきりした不便さと、もう使わない入口を惜しいと思う感じが、同じところに並んだ。懐かしいと思う。けれど、戻りたいわけではない。惜しいのが建物なのか、仕事帰りに角を曲がった道順なのか、それとも返却口の音なのかは、まだ分からない。

信号が青に変わった。新しい図書館の窓に空が映っていた。私は本を返したばかりなのに、鞆の中へ手を入れ、返却する本が残っていないかを一度確かめた。

一 最初に残ったもの

読み終えた直後に残った言葉、場面、感じを一つ書いてください。正答はありません。

二 本文に書かれていること

本文から確かめられるものを、すべて選んでください。

- ア 新しい図書館の入口には段差がないと書かれている。
- イ 書き手は、古い図書館を元のまま戻してほしいと思っている。
- ウ 書き手は、新しい図書館の方が使いやすいと感じている。
- エ 旧館の壁から、図書館を示す文字が外されている。
- オ 書き手が旧館へ歩いた理由は、返却口の音を聞くためだった。

答え：_____

三 同時に置かれた感覚

書き手の中に同時に置かれている二つの感覚を、本文の言葉に沿って書いてください。

四 分かることと、まだ分からないこと

内容	本文から分かる／まだ分からない
古い図書館には段差や狭い通路があった	
書き手が旧館を惜しいと感じた	
惜しいのが建物・道順・音のどれなのか	
書き手が将来たどり着く結論	
新館の窓に空が映っていた	

五 言い切れる範囲

本文に沿う説明として最も適切なものを一つ選んでください。

- ア 二つの感覚が並ぶため、新館の便利さも旧館への思いも、どちらも述べられない。
 イ 新館の使いやすさは述べつつ、旧館の何を惜しむのかは一つに決めず残している。
 ウ 気持ちが揺れているため、入口に段差があったという記録も確かな事実とは言えない。
 エ 最後には新館の窓を見て、古いものを手放し前向きに進む決意を示している。

答え：_____

本文の最後を、次の四通りに変えたとします。

- A 古いものにこだわらず、新しい環境を受け入れることが大切なのだと分かった。
 B 私が惜しんでいるのは、建物よりも、そこへ通った道順なのかもしれない。
 C 何を惜しんでいるのか、今はまだ決められない。
 D 信号が青に変わった。私は空の鞆を閉じ、新しい図書館の窓を見た。

六 結びが確定するもの

それぞれの結びが、何を確定し、何を残しているかを、最も近い説明と結んでください。

結び	働き（順不同）
----	---------

結び	働き（順不同）
A	① 本文中の一つの可能性を、暫定的な考えとして示す
B	② 教訓を確定し、迷いを閉じる
C	③ 今は決められない範囲を明示する
D	④ 具体的な場面へ戻って終える

答え：A____ B____ C____ D____

七 本文に沿う結びを比べる

B・C・Dについての説明として適切なものを、すべて選んでください。

ア Bは「かもしれない」と範囲を限り、本文から考えられる一案を示す。

イ Cは何も考えずに逃げており、本文とのつながりが無い。

ウ Dは結論を説明しないが、信号、鞆、窓という本文の場面へ戻っている。

エ 結論を一つに決めない文章は、常に結論を決めた文章より優れている。

答え：_____

結論を置くことも、置かないことも、それだけで文章の深さを決めません。本文で確かめた範囲に合うかを見ます。

元の文章のあとへ、次の一段落を付け加えたとします。

この経験から、変化を恐れてはいけなさと学んだ。過去を手放し、いつも前を向いて進むことが大切だ。新しい図書館とともに、私も成長していきたい。

八 安易に加わった結論を外す

付け加えた段落について、最も適切な説明を一つ選んでください。

ア 本文にある変化への戸惑いを、乗り越えるまでの流れとしてまとめている。

イ 本文にない教訓や成長を確定し、並んでいた感覚を一つの物語へまとめている。

ウ 前向きな意味を補うことで、書き手が感じた変化を分かりやすくしている。

エ 文章全体に結論がないため、読み手が理解するための説明を補っている。

答え：_____

九 結びを二つ作る

本文に合う別の結びを二つ作ってください。どちらも複数の答えが成立します。

(1) 今の時点で言えそうなことを、言いすぎずに示す結び。

(2) 本文にある具体的な物や動きへ戻る結び。

十 何を残したか

二つの結びのうち一つを選び、確定したことと、確定しなかったことを短く書いてください。

「まだ分からない」は、事実や責任まで曖昧にする言葉ではありません。次の架空の記録を読みます。

共同で作る案内資料は、金曜日の正午までに印刷所へ送る予定だった。担当の美奈から原稿が届いたのは土曜日の午前十時で、入稿は月曜日へ延びた。遅れた理由は、まだ確認していない。

A 人の事情は複雑なので、理由が分からないうちは締切の影響や今後の分担も確かめずに置いてよい。

B 遅れた理由はまだ分からないが、締切を過ぎ、入稿が月曜へ延びたことは確かだ。理由を聞き、次回の分担を相談したい。

C 理由を話さなかった以上、美奈は共同作業を大切にしていないと考え、次回から担当を外すべきだ。

十一 確かなことと未確定のこと

記録から確かめられることを二つ選んでください。

ア 原稿が届いたのは、土曜日の午前十時だった。

イ 美奈は締切よりも、自分の事情を優先した。

ウ 入稿予定は、金曜日から月曜日へ延びた。

エ 原稿が遅れたのは、美奈の体調不良が理由だった。

答え：_____

十二 分からない範囲を残す

事実と未確定の理由を分け、必要な確認も残しているものを一つ選んでください。

答え：_____

十三 複雑さを逃げ道にしない

A と C の問題点を、それぞれ短く書いてください。

A

C

十四 距離を選んで書く

次の A～D から一つだけ選びます。今日は文章の中にとどまる、または通り過ぎることもできます。

A 図書館の文章にとどまり、本文に合う別の結びを一つ作る。

B 身近な小さな迷いを書く。物を手放した、席を替えた、久しぶりの店へ行った、など。詳しい個人情報は不要。

C 相反する感じを、色・重さ・距離・温度のうち二つだけで表す。出来事の説明は不要。

D 今日は書かず、「文章の中にとどまる」または「通り過ぎる」に印を付ける。

選んだもの：_____

A～C を選んだ人は、分かっていることを一つ置き、分からない部分を消さずに二～五文で書いてください。

十五 結び方を選ぶ

いま書いたものを結ぶなら、近いものを一つ選んでください。どれを選んでも、その働きを考えられれば成立します。

ア 暫定的な考えを置く イ 今は決められないと示す ウ 具体的な場面へ戻る

選んだもの：_____ この結びで残るもの：_____

小さなまとめ

まだ分からないことを書くとは、何も述べないことではありません。確かめられること、同時にある感覚、今は決められない範囲を分ければ、結論を急がずに文章を結べます。必要な事実や責任まで曖昧にしないことも、その一部です。

第二十三回 削ると見えるもの

小さな稽古

言葉の多い短文を読みます。削れる箇所と、削ると失われるものの両方を見ます。

午後の公園で、私は古くて年月を感じさせる木のベンチに腰を下ろして座った。長い年月のために古び、表面には細かなひびが入っていた。

右端だけは、何度も手が触れたのか、淡く滑らかに光っていた。その小さな光を、私はなぜか残したいと思った。遠くでボールが一度はね、風に木の葉が揺れた。

一 重なっている内容

ほぼ同じ内容を重ねている箇所の組合せとして、最も適切なものを一つ選んでください。

- ア 「腰を下ろして」と「座った」／「古くて年月を感じさせる」と「長い年月のために古び」
- イ 「右端だけ」と「何度も手が触れたのか」／「遠くでボールが」と「一度はねた」
- ウ 「表面の細かなひび」と「淡く滑らかに光っていた」／「小さな光」と「なぜか残したい」

答え：_____

二 中心を支える具体性

右端に残った手触りや光を中心にする場合、残す働きが最も大きい表現を一つ選んでください。

- ア 時と場所を示す「午後の公園」 イ 光の質を示す「淡く滑らかに光っていた」
- ウ 周囲の動きを示す「風に木の葉が揺れた」 エ 古さを示す「年月を感じさせる」

答え：_____

三 三つの削り方を比べる

- A 古いベンチに腰を下ろした。右端だけが淡く滑らかに光っていた。遠くでボールが一度はねた。
- B ベンチの右端だけが淡く滑らかに光っていた。私はなぜか、その光を残したかった。
- C ベンチがあった。右端が光っていた。

元の文章の中心と余韻をある程度残しながら、重複を減らしているものを、すべて選んでください。

答え：_____

四 削る目的を選ぶ

A と B の違いについて、最も適切な説明を一つ選んでください。

ア Aは周囲の音や動きも残し、Bは右端の光とためらいへ焦点を寄せている。 イ BはAより短いため、どの目的の推敲でもBの方が優れている。

ウ Aは形容語を残しているため、重複を十分に削れていない文章である。 エ 文章を削る場合は、中心に関わる具体表現もできるだけ減らすべきである。

答え：_____

五 自分で削ってみる

元の文章を、中心が読める長さへ整えてください。Aより長くても、Bより短くてもかまいません。重複を減らし、残したい具体的な表現を一つ以上残します。複数の答えが成立します。

六 残した表現の理由

残した一語または一文を挙げ、その表現が文章の意味や調子にどう関わるかを書いてください。

残した表現：_____

七 削ると変わるもの

元の文から「なぜか」を削ると、最も変わりやすいものを一つ選んでください。

ア ベンチが木製であるという事実 イ 理由を説明しきれていない語りの調子

ウ 公園にほかの人がいたという可能性 エ ベンチの右端だけが光っていたこと

答え：_____

小さなまとめ

削ると、重複や中心から離れた説明が見えます。同時に、ためらい、具体性、余韻まで消えることがあります。短さを目標にせず、何を残す文章なのかを選びます。

第二十四回 自分の言葉で、小さく結ぶ

標準の回

最後に、四百字から六百字程度の文章を一つ作ります。完成度を競う課題ではありません。題材との距離を選び、最初の言葉を一度見直すところまで行います。

一 題材を選ぶ

次の中から一つ選んでください。自分自身について書かなくても、すべての手順を終えられます。

- A 長く使っている物
- B 心に残っている小さな会話
- C 好きな場所や時間
- D 最近、少し見え方が変わったもの
- E まだ分からないこと
- F 次の架空の人物と場面

選んだもの：_____

Fを選ぶ人は、次の情報を自由に使ってください。全部を入れる必要はありません。

紗江は、仕事帰りの毎週水曜日、商店街の時計店の前で午後六時二十分のバスを待つ。時計店は今月末で閉店する。店頭の丸時計は、いつも七分進んでいる。

紗江は以前、一度だけ腕時計の電池を替えてもらい、店主に「これなら、まだしばらく使えます」と言われた。

最後の水曜日、シャッターは半分下り、ガラス戸に「四十七年間ありがとうございました」と紙が貼られている。バスが来る直前、店主が丸時計を壁から外す。ブレーキの音がし、紗江は声をかけずに自分の腕時計を見る。

書きたくない経験は選ばなくてかまいません。架空の人物、身近な物、朝や夜の時間だけでも、十分に組みめます。

二 使えるような言葉を集める

選んだ題材から、使えるような要素を短く拾います。空欄があってもかまいません。文章に入れるのは、この一部です。

観点	使えるようなもの
中心にしたい場面・時点	
物・場所	
人の言葉・自分の言葉	

観点	使えそうなもの
音・色・手触り	
身体の動き	
説明しておきたい事実	
まだ決めないこと	

三 残すものを一つ決める

読み手に最も残したいものを、一つだけ短く書いてください。途中で変わってもかまいません。

四 今回は入れないもの

書けるけれど今回は入れないこと、今は書かずに置くことがあれば一つ記します。なければ空欄でかまいません。

具体的な要素を集めても、すべてを使う必要はありません。文章の中心に結びつかない細部を省くことも、言葉を選ぶことです。

五 書き出しを二つ試す

同じ題材について、異なる箇所から二つ書いてください。説明から始めても、物、言葉、音、動きから始めてもかまいません。

書き出し一

書き出し二

六 入口を選ぶ

使う書き出し：_____

選んだ理由を、「上手に見えるから」ではなく、何へ最初に光を当てたいかという点から書いてください。

七 中ほどと結びの見通し

文章の中ほどで置きたいことと、どこで結ぶかの見通しを短く書きます。書きながら変えてかまいません。

中ほどで置きたいこと	結びの候補

結びは、考えを示す／今は決められないと記す／場面へ戻る、などから選べます。教訓や成長を付け加える必要はありません。

八 初稿を書く前に

二頁の原稿欄は、一行二十字、全三十行で最大六百字です。四百字を超えたところから、文章に合う場所で結んでください。

書き始める時点で、残したいもの：_____

九 初稿を書く（前半）

四百字から六百字程度で、一度最後まで書きます。まずは前半十五行です。

一行二十字・十五行（ここまでで最大三百字）

何を変え、なぜ変えたか

十二 完成を確かめる

優劣をつける採点ではありません。文章と推敲の跡を、次の観点から確かめます。

- 選んだ題材が文章の中で見える
- 具体的な場面や言葉が、文章の中心と結びついている
- 抽象的な表現を使った部分は、その中身がある程度伝わる
- 残したものと、省いたものの関係を考えた
- 結論を置く場合も置かない場合も、どこで結ぶかを選んだ
- 推敲で、一つ以上の言葉や順序を選び直した

小さなまとめ

最初に浮かんだ言葉は、間違いではありません。それを残すか、削るか、足すか、動かすかを選び直したとき、文章はそのときの自分に少し近づきます。完成とは、二度と変えない形に固定することではありません。

解答・考え方

第一回から第二十四回まで

第一部の解答・考え方

第一回 「何でもいい」の中身

一 まず受け取る

正答はありません。

彩の言葉にうなずくか、健の事情も分かると感じるかは、読み手によって異なります。ここで大切なのは、あとで正答を知るために第一印象を捨てることなく、自分が最初にどこへ目を向けたかを残しておくことです。

二 「何でもいい」は何を表していたか

正答：ウ

健には、強く選びたい料理はありませんでした。しかし、「辛いものは避けたい」「昨日パンを食べた」「温かいものがよい」という条件はありました。したがって、「何でも条件なく受け入れる」という意味ではありません。

三 二つの「決まっていない」

解答例

- (1) 希望／候補
- (2) 条件／制限

「食べたいものが決まっていない」は、積極的に選びたいものがない状態です。「何を食べてもよい」は、避けたいものや必要な条件もない状態です。日常では同じように扱われがちですが、相手が選ぶ場面では違いが表れます。

四 少しだけ具体的にする

解答例：温かい

完成例は、「強い希望はないけれど、今日は温かいものもいい。辛いものとパンは避けたいな。」です。

五 似た表現をほどく

解答例

ア 「午後であればいつでも大丈夫です。二時か三時はいかがでしょう。」

イ 「場所はお任せしますが、静かに話せる店だと助かります。」

ウ 「人数は概数でかまいませんので、前日までにお知らせください。」

いずれも、曖昧な表現を全面的に捨てず、相手が判断するために必要な条件だけを添えています。表現例と異なっていても、場面の条件が伝われば成立します。

この回で見たこと

「何でもいい」という言葉の中には、「第一希望はない」「相手に任せたい」「ただし条件はある」など、複数の内容が入ることがあります。一語の意味を責めるのではなく、必要な中身を少し外へ出すことが、伝えやすさにつながります。

第二回 「大丈夫」は、どの大丈夫？

一 場面ごとの意味

正答

場面 A : イ 場面 B : エ 場面 C : ウ 場面 D : ア

A は体調の問題が小さくなったこと、B は提示された期限で支障がないこと、C は助けがなくても扱えること、D は電話を受ける時間として都合がよいことを表しています。

二 省略された内容を補う

解答例：資料を明日の午前に渡すこと。

「それ」は直前の提案全体を指します。「明日の午前」という時刻だけでなく、「資料をその時刻に渡す」という内容です。

三 同じ返事でも、何が違うか

- (1) 解答例：窓を開けることを許してよいかどうか。
- (2) 正答：イ
- (3) 正答：できない。

理由例：「大丈夫です」は、助けを断るためや心配をかけないためにも使われるので、実際の体調までは断定できないから。

この場面では「本人が大丈夫だと答えた」という事実は確認できます。しかし、本人がどの程度苦しいか、遠慮していないかまでは、言葉だけでは確定できません。

四 「大丈夫」の前後を見る

正答：ウ

例

- ・「この椅子を使ってもよいですか」――「大丈夫です」
- ・「一人で帰れますか」――「大丈夫です」

前者なら許可、後者なら能力や体調についての返事になります。短い返事ほど、直前の問いが意味の多くを支えます。

五 別の言葉に置き換える

解答例

- (1) 「その席を使つかまいません。」

(2) 「今日はもう心配ありません。」／「今日はもう対応できます。」

(3) 「手伝いは必要ありません。」／「一人でできます。」

(2) は、前後の場面によって複数の言い換えが成立します。「何について問題がないのか」が具体的にになっていればよいでしょう。

六 言葉だけでは決まらないもの

正答：イ

返事から確かに分かるのは、確認を求められた範囲で資料が受け入れられたことです。改善点がもうないこと、受け手が詳しく読んだこと、返事を書く余裕がなかったことまでは決まりません。

確かめられないことの例

- ・細部まで十分に満足しているか。
- ・返事を書いたときの気分や語調。
- ・今後さらに修正を求める可能性があるか。

七 使う場面を軽く点検する

A の解答例

「気遣ってくれてありがとうございます。自分で持てるので、手伝いはなくても大丈夫です。」ここでは最後に「大丈夫」を残しても、前に中身が示されているため意味は明確です。

B の解答例

「参加できます。ただ、開始から三十分ほど遅れて到着する予定です。」

C について

省略していた内容を一つ補えれば成立します。たとえば、「体調を尋ねられたとき」なら「少し休めば動けます」、「依頼を受けたとき」なら「その期限内で対応できます」などです。個人的な事情を詳しく書く必要はありません。

この回で見えたこと

「大丈夫」は、問題がない、許可できる、都合がよい、助けがいないなど、多くの役割を持ちます。意味を読むときは、言葉そのもののだけでなく、直前の問いと場面を見ます。ただし、意味が読めても、本人の内面まで一つに決められるとは限りません。

第三回 その「ちゃんと」は、どれくらい？

一 人によってずれやすい言葉

正答：イ

「ちゃんと」「早めに」「適当に」は、文脈によって便利に働きます。しかし、どこまでできれば「ちゃんと」なのか、いつまでが「早め」なのか、何を任せるのが「適当」なのかを共有していないと、話し手と聞き手の間にずれが生じます。

二 「ちゃんと」の中身が見えるようにする

解答例

「会議室の机をロの字に並べ、各席に資料を一部ずつ置いてください。開始十分前までに終えてください。」

三つの条件がすべて入っていれば、語順や表現が異なっても成立します。

三 「早めに」は何時までか

正答：ウ

話し手が木曜日の午前中に確認したいなら、「早め」という感覚ではなく、木曜日午前十時という期限を示すのが最も分かりやすい言い方です。

四 「適当」はいつ役に立つか

正答：イ

この場面で必要なのは、「通路をふさがない」という条件だけです。それ以外は任せてよいので、「置き方は問わない」と伝えれば、自由にしてよい範囲が分かります。

五 曖昧な言葉を残してよいとき

正答：ウ

曖昧な言葉は、共有された基準を短く呼び出せるときに便利ですが、毎回すべてを説明すると、かえって重くなることもあります。ずれたときに困る条件だけを具体化するのが一つの方法です。

六 相手が動きやすい指示を作る

解答例

ア 「床の物を棚へ戻し、机の上を空けてください。午後五時までをお願いします。」

イ 「参加予定十人分に加え、予備を二つ用意してください。」

ウ 「水曜日の午後三時までに、参加できるかどうかをご返信ください。」

何をするか、どの程度か、いつまでかなど、場面に必要な条件が二つ以上示されていれば成立します。

この回で見えたこと

具体化とは、文章を長くすることではありません。相手が迷いそうな基準を見つけ、それだけを言葉にすることです。「任せてよい範囲」も具体的に示せます。

第四回 どこから話せば伝わる？

一 遅れる連絡を組み立てる

(1) 正答：カ

遅延情報を確認した細かな時刻は、到着見込みや先にできる対応ほど、上司の最初の判断には必要ありません。

(2) 正答：イ

上司がまず知る必要があるのは、打合せの開始に影響があるかどうかです。そのため、到着が遅れる見込みを先に伝えるのが適切です。

(3) 解答例：②→①→③

まず到着見込みを伝え、次に理由を簡潔に述べ、最後に先にできる対応を示すと、相手が判断しやすくなります。場面によっては「②→③→①」も成立します。たとえば対応を急いで相談したい場合です。ただし、理由だけを長く先に置くのは避けたほうが伝わりやすいでしょう。

二 相手によって必要な情報は変わる

解答例

A：ア・イ

B：ア・ウ

C：イ・エ

上司には到着と資料の準備状況、来客には待つ時間、田中さんには資料と担当範囲が特に必要です。Aについては、進行上必要ならエを選ぶことも成立します。大切なのは、相手が次に何を判断し、何をするかに結びついていることです。

三 長い説明を先に短くする

解答例

「電車の遅れにより、到着は午前十時七分ごろになる見込みです。別路線を使って、現在そちらへ向かっています。」

結論、理由、現在の対応が分かれば成立します。元の文にある細かな経過をすべて残す必要はありません。

四 小さな失敗を訂正する

解答例：ア→イ→ウ→エ

まず何が起きたかを知らせ、謝罪し、正しい資料を示し、相手にしてほしい行動を伝える順です。

「イ→ア→ウ→エ」も自然です。謝罪を最初に置く書き方もあります。重要なのは、古い版だったこと、正しい版を送ること、どちらを使うかが明確であることです。

五 不足している情報を見つける

正答：イ

会場変更を知っても、新しい場所が分からなければ参加者は行動できません。

解答例

「明日の集まりは、会場が東館二階の第二会議室へ変更になりました。お間違えのないようお願いいたします。」

六 目的に合う説明を書く

解答例

「七月二十日は、閉館時刻を午後六時へ変更します。館内整理のため、通常より二時間早い閉館となります。返却ポストは午後六時以降も利用できます。」
閉館時刻が通常どおりであることを加えてもかまいません。三文以内、変更点が最初、理由と返却ポストの情報があることが条件です。

七 順序を選ぶ理由

正答：ウ

説明の目的は、自分が経験した順にすべて話すことではなく、相手が必要な判断や行動をできるようにすることです。経緯が重要な場面では後から詳しく述べます。

この回で見えたこと

「どこから話すか」は、文章の技術であると同時に、相手の位置を想像することでもあります。最初の一文で結論を置くことが常に唯一の正解ではありませんが、実用的な連絡では有効なことが多い方法です。

第五回 見たことと、感じたこと

一 最初の印象

正答はありません。

文章Aは具体的な配置を多く示し、Bは静かな印象を、Cは活気の乏しさや店員への見方を前に出しています。どれを好むかは読み手によって異なります。選んだ理由を後の問題で見直すため、気になった言葉を残しておきます。

二 四つの種類に分ける

正答

- (1) 観察
- (2) 印象
- (3) 評価
- (4) 推測
- (5) 観察
- (6) 推測

(2)の「別の時間の中にいる」は目に見える事実そのものではなく、書き手が受けた印象を比喻で表したものです。(3)の「活気に乏しい」には、状態を一定の基準から見た判断が含まれます。

三 本文から確かめられること

正答：イ・ウ

窓際の二卓に客がいることは文章 A に、外で雨が降っていることは問題文と文章 B に示されています。ほかの席が空いていること、グラスが六人分であること、生演奏であることは確定できません。

四 同じ事実は何が加わったか

(1) 正答：イ・エ

(2) 正答：ウ

グラスが伏せてあることから、「仕事が一段落した」「手持ち無沙汰だ」と考えることはできます。しかし、開店前にまとめて洗ったのかもしれない、すぐ使うために準備したのかもしれない。

(3) 解答例

- ・次の客に備えて、洗ったグラスを乾かしている。
- ・忙しくなる前に、店員がまとめて洗い物を済ませた。

本文と矛盾しない可能性であれば成立します。

五 事実と評価の間

解答例

「窓際の二卓に客がいて、ほかの二卓は空いていた。小さなピアノ曲が流れていた。」
「活気がない」という評価を直接書かず、そのように感じる手がかりになった具体的な状態へ戻しています。ほかにも、「会話の声について本文には書かれていない」ことに注意し、本文にある情報だけを使えば成立します。

六 どの事実を選ぶか

紹介 1 の例

選ぶ事実：ウ・エ・カ

「窓際では一人が本を読み、もう一人がカップを両手で包んでいる。小さなピアノ曲が流れ、急がずに過ごせる静けさがある。」

紹介 2 の例

選ぶ事実：イ・オ・キ

「雨の午後、窓際の二卓にだけ客がいる。カウンターには六つのグラスが伏せられ、店内には空いた席が残っている。」

紹介 2 の例では「さびしい」と断定せず、そう感じさせる事実を選びました。「さびしい店だ」と印象を加える書き方も、紹介の目的に合えば成立します。

七 選ばなかった事実

解答例

使わなかった事実：小さなピアノ曲が流れている。

理由：少しさびしい店として書くとき、落ち着きや心地よさを強く感じさせる情報を外したかったから。

事実を隠すことが常に不正確とは限りません。短い文章ではすべてを書けないため、目的に応じて選びます。ただし、重要な反対情報を意図的に落とすと、読み手を偏った理解へ導くことがあります。

八 評価をほどいてみる

解答例

ア「落ち着いた店」

手がかり：客が本を読み、ピアノ曲が小さく流れている。

ほかの見方：会話が少なく、活気が足りないと感じる人もいる。

ウ「気の利かない店員」

手がかり：文章 C では、店員が窓際の客を気にしていないように書かれている。

ほかの見方：客が静かに過ごせるよう、あえて声をかけていない可能性もある。

「ほかの見方」は最初の評価を否定するためではありません。何を根拠に感じたのかと、まだ確かめていないことを分けるためのものです。

九 書き手の位置を見る

正答：イ

B の「別の時間の中にいる」「空気を静かに均していた」は、書き手の印象を比喩的に表しています。C は「活気に乏しい」という評価や、「長居をしているらしい」「手持ち無沙汰」という推測をより強く前へ出しています。

十 読み手として立ち止まる

解答例

- ・実際に店員が客へどのように接していたかを確認する。
- ・空いている時間帯だっただけなのか、普段も同じなのかを見る。
- ・自分が「活気のある店」を好むため、静かさを悪く受け取った可能性を考える。

三つ目は、自分の受け取りを点検する例です。ただし、店に問題がないと決める必要はありません。第一印象を手がかりとして残しながら、何が事実かを増やします。

十一 外側のものを描写する

A の例

「白い壁の前に、木の長椅子が二脚置かれている。丸い時計は十一時二十分を指し、窓の外で自転車のベルが一度鳴った。机には、折り目のついた案内冊子が三冊ある。」

B の例

「白い壁の前に木の長椅子が二脚あり、時計は十一時二十分を指している。窓の外で自転車のベルが一度鳴り、待合室の静けさが少しだけ揺れた。」

C の例

落ち着いている書き方：

「白い壁の前に長椅子が二脚並び、時計は十一時二十分を指している。遠くで自転車のベルが一度鳴った。」

心細い書き方：

「二脚の長椅子に人の姿はなく、時計だけが十一時二十分を指している。折り目のついた冊子が三冊、机に残されている。」

C では、与えられた同じ情報から、選ぶ事実や語順を変えています。例と異なっても、観察と印象が混同されず、与えられた情報から大きく飛び越えていなければ成立します。

この回で見えたこと

観察、印象、評価、推測は、実際の文章では重なり合います。分ける目的は、冷たい「客観」だけを残すことではありません。自分が何を見て、そこから何を感じ、どのような判断を加えたのかが分かると、感じ方を保ったまま、伝え方を選び直せます。

第六回 手が覚えていた場所

一 本文に書かれていること

正答：ウ

本文には、「朝のコーヒーにも夜の白湯にも使っていた」とあります。カップは引越して間もないころに買い、欠けは指でなぞるだけならほとんど分かりません。灰色のカップを友人が贈ったとも書かれていません。

二 カップを奥へ移した理由

解答例：欠けた縁が、飲むたびに唇へ触れたから。

直接の理由は、使うたびに欠けた部分が唇へ触れることです。「危険だったから」とだけ書くと、本文では「痛いほどではない」とされているため、やや言いすぎになります。

三 手のほうが先に知っていた

正答：イ

書き手は、白いカップがもうその場所にいることを意識では知っています。それでも長く繰り返した動作が身体に残り、手が元の場所へ向かいます。ここでは、習慣が知識より先に動く感覚が表されています。

四 「空白」の二つの意味

(1) 解答例：白いカップを置いていた、棚の右奥の一杯分の幅。

(2) 解答例：長く使った物がなくなったあとに残り、すぐ別の物で埋めたくない余韻。

「使い終えた言葉のあとの間」は、会話のあとにすぐ次の言葉を重ねず、しばらく残る沈黙を思わせます。同じように、棚の空白は単なる寸法ではなく、カップとの習慣が消えきらない時間を感じさせています。

五 表現の働き

正答：イ

この比喻は、空いた幅を物理的に説明するためではなく、書き手がなぜすぐ棚を詰めなかったのか、その言い切れない余韻を表しています。

六 題名を考える

解答例

「カップがなくなったあとも、手が元の置き場所や重さを覚えていたことが文章の中心だから。」

本文の中心である「身体に残った習慣」と「場所」を結びつけて説明できていれば成立します。

別の題名の例

- ・「カップ一つ分の間」
- ・「右奥へ伸びる手」
- ・「午後の光がたまる縁」
- ・「残っていた重さ」

題名は、本文のどこへ光を当てるかによって変わります。内容と結びついていれば、一つに決まりません。

七 最後を読む

最も本文に合いやすいもの：イ

書き手は「まだ場所があるから」と答えましたが、すぐに「少し違う気がした」と感じています。自分でもまだぴったりの言葉にできていないため、言い直さず光を見ていた、と読むのが自然です。

ただし、本文は理由を断定していません。「説明を続けるより、そのまま見ていたかった」「友人にも言葉にならない部分が伝わる気がした」なども、本文と矛盾しなければ成立します。アのように友人を見下す読みは、本文に手がかりがありません。

八 距離を選んで書く

A の解答例

「白いカップは、欠けたため飲み物を入れる役割を終えた。その後は窓辺で小さな匙を立て、別の形で使われている。」

B の解答例

「毎日使う鍵は、考える前に手がいつものポケットを探す。別の鞆を持った日にも、手だけが元の場所へ動く。」

詳しい思い出や感情まで書く必要はありません。物と動作が結びついていれば成立します。

C の解答例

「白地に細い青線が一本あり、縁の一部が米粒ほど欠けている。かすれた線と小さなくぼみに、午後の光が細く当たっている。」

感情語を使わず、本文にある具体的な特徴を三つ以上示しています。

この回で見えたこと

本文から明確に読めることと、最後に残る余韻は、同じ文章の中にあります。カップの使われ方や比喻の働きには、本文に基づく答えがあります。一方、書き手がなぜ言い直さなかったのか、どの題名が最もよいかは、一つに決まりません。決まらない問いでも、本文の言葉を手がかりにすれば、どのような答えでもよいわけではありません。

第一部の終わりに

いつもの言葉は、役に立たないから曖昧なのではありません。多くを省き、場面や関係に中身を預けることで、軽やかに働いています。その中身を必要なときに確かめること、見たことと感じたことの間を見ること、説明しきれない余韻を急いで閉じないこと。第一部では、その入口に立ちました。

第二部の解答・考え方

第七回 何が起きて、何を思ったか

一 まず受け取る

正答はありません。腹立たしさ、心配、麻衣の事情への想像など、最初に浮かんだものを残す問いです。後の問題で区別を学んでも、ここでの受け取りを消す必要はありません。

二 四つに分けてみる

(1) 出来事 (2) 出来事 (3) 受け取り (4) 感情 (5) 受け取り (6) 感情 (7) 願い

(5) は心配につながる考えですが、「何かあった」という出来事はまだ確認されていません。実際には、受け取りと感情が重なって現れることもあります。分けるのは、言葉の働きを見やすくするためです。

三 混ざった一文をほどく

(1) 解答例：午後二時二十分になっても、麻衣は西口に来ていなかった。
(2) 解答例：「私との約束を軽く見ている」「私は大切にされていない」。
(3) 解答例：腹立たしい、寂しい、心配だ／遅れる理由や見込みを、分かった時点で知らせてほしかった。

(1) は「二十分も」を時刻へ戻しています。(2) は悠の受け取りとしては意味がありますが、麻衣の意図や二人の関係についての事実にはまだなりません。(3) は場面に合う感情と願いであれば、例と異なっても成立します。

四 どこまでが、場面から言えるか

正答：ア・ウ

アは問題文に、ウは悠の記録に示されています。イとエは麻衣の意図についての推測で、遅れと短い連絡だけからは確定できません。

五 説明が加わったあと

正答：ウ

電車が止まり、連絡できない時間があつたという情報が加わりました。これによって、麻衣が意図的に約束を軽く扱ったという読みは支えにくくなります。ただし、悠が待ったこと、その間に腹立たしさや心配を感じたこと、もう少し情報がほしかったことまでは消えません。

六 同じ待ち時間を、二つに読む

(1) 解答例：午後二時二十分になっても、麻衣が西口に来ていなかったこと。

(2) 解答例：Aは「約束を後回しにされた」という意味を加え、Bは「途中で何か起きた」という可能性を加えている。

(3) 解答例：以前にも連絡のない遅刻が続いていたか／麻衣が普段は時間を守る人か／交通機関の遅延情報が出ていたか。

(3) には複数の答えが成立します。過去の経験や追加情報は読みを動かしますが、本文に書かれていない過去を、今回の事実として勝手に足さないことが条件です。

七 距離を選んで整理する

Aの例 出来事：電車が止まり、麻衣は午後二時二十四分に着いた。／受け取り：故意に後回しにしたとは限らないと思った。／感情：事情が分かってほっとしたが、待った疲れや腹立たしさは少し残った。／願い：次に連絡できる状況なら、理由や到着見込みを知らせてほしい。

Bは、軽い出来事について四つが区別されていれば成立します。空欄や「まだ分からない」も有効です。個人的な事情を詳しく書く必要はありません。

この回で見えたこと 出来事と受け取りを分けても、感じたことの意味は失われません。分けたあとには、何を確かめ、何を伝え、何をまだ保留するかを選べます。

第八回 「いつも」と言いたくなるとき

一 範囲を広げる言葉

A「いつも」 B「みんな」 C「全然」

二 言葉どおりには確かめられないもの

正答：エ

Aには洗った日が一日、Bには反対していない人が五人、Cには催促後に完了した二件があります。そのため、三つの強い語の範囲を、記録どおりの事実とはできません。

三 強さの奥にある不満

解答例 A：食器が残る日が続き、後から片づける人の負担になっている。

B：反対意見が目立ち、案を進めることへの不安がある。

C：一度の依頼では進まず、催促する負担と未完了の一件に困っている。

記録から離れすぎず、話し手の不満の中心を捉えていれば成立します。

四 不満を薄めずに、範囲を直す

正答：ウ

回数を示したうえで、「使った日のうちに洗ってほしい」という願いも残しています。

五 二つの言い換えを作る

(1) 解答例：八人のうち三人から反対意見が出て、賛成意見より強く印象に残った。保留の人もいるので、懸念をもう少し確かめたい。

(2) 解答例：三件のうち二件は催促後に終わったが、一件はまだ終わっていない。催促しなくても期限までに進め、残りは金曜までに終えてほしい。

(1) は人数と印象を分け、(2) は完了状況と今後の希望を示しています。事実の範囲と不満の中心が残っていれば、別の表現も成立します。

この回で見たこと 強い語は、積み重なった不満を一息で表すことがあります。必要なときに範囲を戻すと、不満をなかったことにせず、何が続き、どう変えてほしいかを話せます。

第九回 同じ出来事、二つの話

一 まず、二つの話を読む

正答はありません。A はその場で対応できたことを前に出し、B は進行が分かれたことと次回の改善を前に出しています。自分が安心した、または気になった言葉を残せばよい問いです。

二 二つに共通する事実

正答：(1) (2) (3) (4) (5) (8)

笑い声が会の間ずっと続いたことは、どちらにも書かれていません。A には一時の笑い声が記されていますが、会の全体へ範囲を広げられません。また、機器の不調が事前確認の不足によって起きたとも確定できません。

三 共通していなくても、矛盾とは限らない

正答：ウ

B が笑い声に触れなかったのは、その記録で別の点を選んだためかもしれません。「書いていない」と「なかった」は同じではありません。

四 基本の流れと、意味づけ

正答：ア

開始時に写真が映らず、橋本さんが読み始め、佐伯さんが機器を調べ、八分ほどで写真が映り、十時五十分に終わったという流れは共通しています。その流れを、A は対応の手応えから、B は改善点から見ています。

五 どこに光を当てたか

解答例 画面が出ない間：A「橋本さんがすぐ読み始めた」／B「子どもが画面や後ろを見ていた」。

写真が映ったあと：A「視線が戻り、笑い声が上がった」／B「途中で読みを止めて

再開した」。

会の終わり：A「落ち着いて最後まで進められた」／B「機器確認と順序を見直したい」。

Aは立て直した働きを、Bは進行の途切れと次回の改善を強調しています。本文から同じ働きの言葉を抜き出していれば成立します。

六 二つの文章の働き

文章A：ア 文章B：イ

Aは臨機応変に続けられたことを中心にし、Bは次回の準備と順序を考える記録になっています。どちらも、誰か一人を責める文章にはなっていません。

七 第三者の立場からまとめる

解答例：地域センターの読み聞かせ会では、開始時に写真がスクリーンへ映らなかった。橋本さんが写真なしで読み始め、佐伯さんが映写機を直し、八分ほどして写真を加えた。会は午前十時五十分が終わった。佐伯さんは対応して続けられた点を、橋本さんは進行と準備の改善点を重く見ている。

基本の流れと二人の重点が入り、どちらかを正しい側・誤った側に置いていなければ成立します。

八 立場の表れる言葉

解答例 A：「落ち着いて最後まで進められた」 B：「流れが二度に分かれた」。

Aは出来事を立て直しの経験として、Bは次回へ残る進行上の課題として意味づけています。

Aなら「すぐに」「視線も戻り」、Bなら「見直したい」なども選べます。文章全体の重点と結びつけて説明できれば成立します。

九 二つの話を並べる意味

正答：イ

この回で見えたこと 事実が共通していても、情報の選び方と強調によって話は変わります。違いを比べることは、どちらかを消すことではなく、一つの話だけでは見えにくい輪郭を増やすことです。

第十回 「冷たい」は気持ちだろうか

一 感情を表す言葉、相手を評する言葉

自分の感情・状態：寂しい、困った、腹が立った。

相手や行動への評価：冷たい、無責任だ、勝手だ。

ここでは「困った」を話し手の状態として扱います。評価語は、何かを感じた結果として自然に出ることがあります。

二 一つの評価語の背後にあるもの

正答：ア・イ・ウ

ア・イはありうる感情、ウは願いです。エの悪意は決まらず、ア〜ウをすべて感じていたとも断定できません。

三 評価を消さずに、少し詳しくする

解答例：返事が「今週は難しいです」だけだったので、私は冷たいと感じ、寂しくなった。今週が無理でも、次に話せそうな時期を知らせてほしかった。

「冷たいと感じた」を残し、感情や願いが場面に合えば成立します。相手が短く返した理由は断定しません。

四 別の評価語をほどこ

Bの解答例：担当者が催しの二日前に参加を取りやめ、準備が間に合うか不安で腹も立った。早めに知らせ、引継ぎを相談してほしかった。

Cの解答例：共有棚が相談なく移されていて驚き、使いにくくて困った。場所を変える前に相談してほしかった。

本文の事実を保ち、相手の意図を断定せず、感情と願いが場面に沿えば成立します。

この回で見たこと 評価語は、受け取りの結論を短く表します。その結論の下にある感情と願いを開くと、相手の内面を決めつけずに、自分が何に困ったかを伝えられます。

第十一回 短い返事が気になった

一 第一印象を残す

正答はありません。「明日話しましょう」に問題や怒りを感じる人も、単に今は時間がないと読む人もいます。大切なのは、後の読みで最初の印象を書き換えず、何がきっかけだったかを残すことです。

二 実際に書かれていること

解答：「見ました」「明日話しましょう」

語尾や句点も含めて抜き出しかまいません。木戸さんが何を感じているか、どの箇所を問題にしているかは、この二文には書かれていません。

三 返事に書かれていないこと

正答：ア

案内を見たことと翌日話すことは書かれていますが、修正箇所や理由の説明はありません。

四 事実と推測を分ける

- (1) 事実 (2) 事実 (3) 事実 (4) 推測 (5) 推測 (6) 推測 (7) 事実
(8) 推測

(3) は、少なくとも木戸さんが翌日の会話を提案したという事実です。実際に何時に何を話すかは未確定です。(4) ~ (6) (8) は短文から補った読みで、ありえないとは言えませんが、確認もできません。

五 推測を入れずに、状況を書く

解答例：林さんが午後三時三十二分に修正版の確認を頼むと、木戸さんは九分後に「見ました。明日話しましょう」と返した。返事には、案内の修正箇所や詳しい理由は書かれていなかった。
時刻、実際の文、書かれていない情報を、感情の断定なしに示していれば成立します。

六 推測と感情は、同じではない

正答：イ

ここまでの要点 「木戸さんが怒っている」は推測ですが、「林さんが不安になった」は林さんに起きたことです。推測を保留しても、感情まで無かったことにはしません。

七 ほかにありうる説明

正答：ア・イ・ウ・エ

四つとも、短い返事だけでは否定できません。オは「見ました」と矛盾する可能性の説明ではなく、本文にないことを「確定した」とする選択肢です。なお、ありうる説明を挙げただけでは、どれが実際に近いかは分かりません。

八 何が分かれば、読みを動かせるか

解答例 午後三時台の予定：会議直前で時間がなかった可能性。／普段の返事の長さ：いつもの簡潔な書き方か。／案内とフォームの内容：具体的な修正点があるか。／翌日の説明：実際に短くなった理由や話したかった内容。

一つの情報が複数の説明に関係することもあります。「予定が空いていたから必ず怒っている」のように、追加情報からも内面を飛躍させないことが条件です。

九 まだ分からない、と置く

解答例：木戸さんがどのような感情で返事を書いたかは、このメッセージだけからは分からない。

「怒っているとも、怒っていないとも確定できない」でも成立します。「分からない」は考えていない状態ではなく、根拠の届く範囲を示す言葉です。

この頁で見えたこと 別の説明を考えるのは、相手を免責したり、自分を納得させたりするためだけではありません。一つの読みを事実にしないうまま、次に必要な情報を選ぶ働きがあります。

十 尋ね方は、目的で変わる

(1) 正答 : C (2) 正答 : D

(3) 解答例 : A は「怒っている」という感情を、問いの前提に置いている。

C は今日中に直す一点を尋ね、D は明日の時間を尋ねます。B は広く問題を尋ねるため、相手がどの程度答えればよいかやや曖昧です。A が常に不適切なわけではありませんが、この場面では相手の感情を先に決め、仕事上の確認点から離れやすくなります。

十一 短い返答を作る

解答例 : 承知しました。明日お願いします。もし今日中に直す必要がある箇所があれば、急ぎの点だけ教えていただけますか。

返事を受け取ったこと、明日話すことを了承したこと、今日確認したい一点が分かれば成立します。「お忙しいところ恐れ入ります」などを加えることもできますが、長くする必要はありません。

十二 翌日、分かったこと

正答 : ア・イ・ウ

会議直前だったこと、締切の不一致があったこと、ほかに大きな問題はないという木戸さんの説明が確認されました。怒りや失望については、翌日の言葉にも書かれていません。

十三 最初の受け取りを振り返る

正答はありません。たとえば「重大な問題かもしれない」という不安は弱まり、「返事が短くて情報が足りなかった」という感覚は残ることがあります。反対に、修正点を実際にあったため、最初の緊張が一部残る人もいます。

動いた点が残った点を一つ示せば成立します。「まだ決められない」も有効です。

十四 不安になったことは「誤り」だったか

正答 : ウ

短い返事で詳しい情報が得られず、不安になったことは林さんの経験として残ります。一方、そこから怒りや失望を確定した場合、その部分は推測です。翌日の説明は、感情を消すのではなく、推測を動かす材料になります。

十五 五つの動きを一度つなぐ

A の解答例 : 確認ありがとうございます。明日お願いします。今日中に対応が必要な点があれば、その箇所だけ先にお知らせいただけますか。

B は、実際の言葉と自分の受け取りを分け、ほかの説明を一つ置ければ成立します。相手の事情や自分の経験を詳しく書く必要はありません。C は、覚えておきたい番号を選ぶだけで十分です。

五つの流れは、毎回すべて通る義務ではありません。急ぎならまず尋ねることも、影響が小さければ待つこともできます。大切なのは、第一印象を否定せず、同時にそれだけで相手の内面を決めないことです。

この回で見えたこと 短い返事の外側には、内容、時間、習慣、関係など複数の文脈があります。実際の言葉と自分が補ったことの間を見れば、不安を恥じずに、必要な確認へ進めます。

第十二回 違和感を急いで消さない

一 まず受け取る

正答はありません。忘れた、説明がずれた、理由はまだ決められない、など、最初の受け取りをそのまま残します。

二 違和感の生まれた箇所

正答：ウ

「次の日曜の読書会に」という頼みと「了解」という返事が、当日の「いつでもいいと思っていた」とかみ合いません。

三 二つの言葉を並べる

前のメッセージ：「次の日曜の読書会に持ってきてもらえる？」

当日の説明：「いつでもいいって言っていたと思った。」

必要な箇所が分かる範囲で短く抜き出せば成立します。

四 確かな情報と、まだ決まらない情報

確かめられること：(1) (2) (3) (6)

まだ決まらないこと：(4) (5) (7) (8)

(6) は説明した事実で、記憶が説明どおりだったかは別です。(4) (5) (7) (8) の理由や意図は未確定です。

五 いま言えるところまで書く

解答例：裕子が次の日曜に本を持ってきてほしいと頼み、真帆は了解と返した。当日、真帆は持参せず「いつでもいいと思っていた」と説明した。食い違った理由はまだ分からない。

記録、当日の出来事、未確定の理由を分けていれば成立します。

六 違和感は、何を示しているか

正答：ウ

二つの言葉の食い違いは確認できますが、嘘や悪意までは証明しません。理由が未確定でも、食い違いは残ります。

七 次の一步を比べる

正答：ウ

ウは記録を示し、記憶と今後の返却を分けて確かめます。アは違和感を消し、イは嘘を確定し、エは確認前に今後を決めています。

八 二種類の問いを作る

(1) 解答例：前のメッセージには「次の日曜」と書いてあるけれど、真帆はこのやり取りをどう覚えていた？

(2) 解答例：本は、いつなら持ってこられそう？

(1) は意図を決めずに記憶や理解を尋ね、(2) は次の行動を具体化しています。

九 違和感を、手がかりとして置く

解答例 確か：次の日曜に返すやり取りがあり、当日は返らなかった。／合わない箇所：「次の日曜」と「いつでもいい」。／未確定：忘れたのか、違う意味に受け取ったのか。／次の行動：記憶を尋ね、新しい返却日を決める。

個人的な経験へ移らず、登場人物について四点が整理できていれば成立します。

十 見方を増やすことと、感覚を消すこと

正答：ウ

アは別の見方を自己否定に使い、イは違和感を証明にしています。証拠が揃う前でも、未確定を残して尋ね方や境界を選べます。

この回で見えたこと 違和感を保つとは疑いを育てることではなく、合わなかった言葉を残し、確かなことと未確定なことを分けて次の一步を選ぶことです。

第二部の終わりに

起きたことと、そこから受け取ったことの間には、
ときどき、すぐには埋まらない幅があります。

その幅を見つけても、最初の気持ちを捨てる必要はありません。
別の見方を置いても、違和感を急いで消す必要はありません。

確かなことを確かめ、分からないことを分からないまま残し、
必要なら、次の言葉を相手との間に置く。

第二部でほどいたものは、ここから、人との間を考えるための糸になります。

第三部の解答・考え方

第十三回 聞いてほしい？ 意見がほしい？

一 返答の中心を見分ける

(1) 共感 (2) 聴く (3) 助言 (4) 問題解決

(1) は感情に近づき、(2) は話を続ける問い、(3) は方法、(4) は一緒に行動する提案です。実際には、複数の働きが重なります。

二 いま求めているもの

正答：エ

莉奈は出来事と引っかかりを話しましたが、聴いてほしいのか、意見や具体策がほしいのかまでは述べていません。どの可能性も先に決めない読みが必要です。

三 決めつけずに返す

正答：ア

アは話を受け取り、話を続けるか意見を求めるかを選べます。イは助言が先で、ウ・エは引っかかりを軽くしたり、今後を断定したりしています。

四 希望が分かったあと

正答：イ

朋恵は「一緒に見てほしい」と述べています。ここでは条件を比べる具体策が役立ちます。共感だけ、助言だけを常に正解にはできません。

五 相談する側から希望を伝える

(1) ア (2) イ (3) ウ (4) エ

(4) のように、希望がまだ定まらないことをそのまま伝える言い方も成立します。相談する人が、最初から自分の希望を整理できているとは限りません。

六 無理のない言い出し方を作る

解答例：仕事を続けるか迷っているんだけど、今日は結論を決めたいというより、少し話しながら整理したい。聞いてもらえる？

「今日は決めない」「話しながら整理したい」など、今求めることが無理なく示されていれば成立します。

第十四回 頼むとき、何を伝えるか

一 相手が判断するための情報

正答：ア・イ・ウ・エ・カ

確認箇所、期限、分量、期限の理由、難しい場合の返し方があれば、相手は作業の内容と負担を見積もれます。送り手が何度読み返したかは、今回の依頼を引き受ける判断には直接関係しません。理由や分量は、すでに共有している場合には省けることもあります。

二 長さではなく、中身を比べる

正答：イ

何を、どこまで、いつまでに、なぜ確認するかが分かり、難しい場合には相談できます。アは丁寧ですが内容と期限が曖昧です。ウは相談の余地を閉じ、エは今回の判断に必要な情報へすぐ届きません。

三 必要な情報を残す

正答：ア・イ・ウ・エ・オ

日時、作業、目的、見込みの負担、難しい場合の返答期限が必要です。ポスターの色と椅子の購入年は、今回の依頼を引き受ける判断にはつながりません。

四 地域での依頼を書く

解答例：日曜日の午前九時から、倉庫の折り畳み椅子二十脚を集会室へ運ぶ作業をお願いできますか。午前十時の企画会議までに整えたい作業で、もう一人と二十分ほどを見込んでいます。難しければ、金曜日までに知らせてください。

何を、いつ、どの程度行うかと、難しい場合の返し方が分かれば成立します。言葉を長く、または丁寧に飾ること自体は採点の中心ではありません。

五 遠回しにしすぎた依頼

最初の問いの正答：ア・イ・ウ / 次の問いの正答：ア

元の文では、対象と期限が分からず、亜希の都合も確かめていません。選択肢アは具体的な依頼を置きながら、「難しければ」と別の選択も残しています。明確な依頼と命令は同じではありません。

六 共有していることは省ける

正答：ア

前夜に作業と場所を共有しているので、翌朝は対象と期限を短く確認できます。ただし、事情が変わったときの相談まで閉じる必要はありません。共有されている情報は省けますが、共有されていない情報まで「分かるはず」とはできません。

七 依頼の骨組みを作る

何を・どの程度：四月号の二ページ分 / どこを見るか：開催日と申込先の電話番号 / いつまで：月曜日の正午 / 期限の理由：火曜日に印刷所へ渡すため / 難しい場合：確認できる範囲と返せる時刻を知らせてもらう

八 関係に応じた依頼を書く

解答例：四月号の二ページ分について、開催日と申込先の電話番号を確認していただけますか。火曜日に印刷所へ渡すため、月曜日の正午までにお返しいただけると助かります。難しい場合は、確認できる範囲と返せる時刻をお知らせください。

初めて一緒に仕事をする相手なので、対象や期限を共有済みとは考えずに書いています。別の順序でも、相手が判断できる情報が揃っていれば成立します。

この回で見たこと 依頼は、自分の希望を曖昧にせず、同時に相手の判断の余地も残せます。情報の量ではなく、何を判断するための情報かを考えます。

第十五回 断るとき、どこまで話すか

一 四つの断り方を比べる

(1) B (2) C (3) D

Bは「難しいかもしれない」「また分かったら」と述べ、結論を保留しているように見えます。Cは断るために必要な範囲を越えて私的な事情を詳しく述べています。Dの代案は、その日が確実に空き、会いたい意思もある場合に役立ちます。

二 短い断りも成立する

正答：イ

Aは誘いへの感謝、今回行けないという結論、最小限の理由を示しています。関係によっては別の言葉を添えることもできますが、私的な事情や不確かな代案を足さなければ不誠実、とは言えません。

三 説明する範囲を選ぶ

正答：ア

引き受けられないという結論と、外せない予定があることを示しています。イは結論を曖昧にしたまま事情の優先を求め、ウは望まない私事まで開き、エは勤務調整に必要な結論を遅らせます。

四 言わない部分を残す

結論：必ず必要 / 予定の詳しい内容：自分で選べる / 勤務調整に必要な返答の時期：必ず必要 / 私生活上の書類：自分で選べる

ここでは同僚間の交代依頼を扱っており、私生活上の書類が必要だとは書かれていません。職場の正式な制度や手続が別にある場合は、その範囲で必要な情報が変わることがあります。

五 短い返答を作る

解答例：声をかけてくれてありがとうございます。その日は外せない予定があるため、勤務の交代は引き受けられません。早めに別の人へ相談してもらえると助かります。

結論が明確で、私事を詳しく書いていなければ成立します。最後の一文は、この場面で相手が次の調整へ進むための配慮です。

六 余分な説明を見つける

正答：ア・イ

必要な中心は、受付を引き受けられないことと、外せない予定があることです。駅名や用事の内訳は、本人が話したい場合を除き、断るための条件ではありません。

七 削って整える

解答例：お声がけありがとうございます。土曜の朝は外せない予定があるため、今回は受付を引き受けられません。準備が必要なところ、早めにお返事します。

結論と必要な理由が残り、過剰な謝罪や実行できない代案がなければ成立します。

「準備が必要なところ」の一文を置かない、さらに短い答えもありえます。

八 代案を置くかどうか

正答：ア・ウ

どちらも本人が実際にできる範囲を具体的に示しています。イは今後の予定が未定なので、無理に代案を作る必要はありません。エは紹介先を知らないのに約束しています。代案は、誠実さを示す飾りではなく、実行できる場合の選択肢です。

九 待たせる返答を見つける

正答：C

本人は断ると決めているのに、「前向きに検討」「待ってください」と伝えると、担当者は返答を待ってしまいます。AとBは短いものの、今回できないという結論は明確です。

十 関係の異なる場面で書く

解答例 ア：誘ってくれてありがとうございます。今回は行けません。別の日については、予定が見えたらこちらから連絡します。

イ：声をかけてもらいましたが、今日中の資料作成は引き受けられません。締切の調整が必要なら、早めに別の方へも相談してください。

ウ：お声がけありがとうございます。半年間の係は、継続して担当できないためお引き受けできません。今回は担当者を含めず進めてください。

選んだ場面で、相手が次の判断へ進める結論があり、無理な説明や約束がなければ成立します。

この回で見えたこと 断る権利と相手への配慮は両立します。説明しない部分を残してもよく、反対に、曖昧な返答で待たせない方がよい場面もあります。

第十六回 「分かる」と「賛成」は同じ？

一 四つを区別する

(1) 理解 (2) 共感 (3) 同意 (4) 賛成

(1) は理由をつかみ、(2) は落ち着いた感覚に近づき、(3) は「土曜は混みやすい」という認識を共有し、(4) は提案を支持しています。日常語では境界が重なるため、ここでは各文の中心で分けています。

二 一語だけでは決まらない

正答：エ

「分かる」は、理由を理解した、気持ちを想像できる、自分も同じだ、案に賛成する、など複数の意味になりえます。一語だけで直人の立場までは確定できません。

三 理解と異論を同じ返答に置く

正答：ウ

混雑を心配する理由を受け取りながら、結衣自身は候補だけを決めたいと述べています。アは自分の立場を消し、イは相手の理由を受け取らず、エは結衣が実際に持っている意見を曖昧にします。

四 別の場面で二つを併記する

解答例：資料を読む人には、今より明るい方が見やすいという理由は分かります。一方で、私は休憩室には目を休められる明るさも残したいです。手元だけを明るくする方法も比べたいと思います。

甲の理由を正確に受け取り、乙の異なる立場が明確なら成立します。代案は必須ではなく、相手の反応を納得させる保証にもなりません。

五 尊重は賛成と同じか

正答：ウ

尊重は、相手を言い負かさないことだけでも、相手に従うことでもありません。理由を理解しようとしながら、賛成できない点や自分の立場を明確に置くことができます。この回で見えたこと 理解、共感、同意、賛成を分けると、「分かると言ったのだから従うはず」「反対するなら分かっていない」といった飛躍を避けられます。

第十七回 正しいことを、いつ言うか

一 最初に受け取ったもの

正答はありません。「途中で帰った人」「うまく進められなかった感じ」「今日はまず」など、気になった箇所をそのまま残します。後の検討によって、最初の受け取りを誤りとして消す必要はありません。

二 記録から確かめられること

正答：ア・イ・エ・カ

予定の合計は六十分で、映写機に八分かかり、途中にも質問があり、終了は十八分遅れました。退室した二人の感情や、香奈の適性は記録からは確定できません。

三 香奈が話したことを確かめる

確かめられること：(1) (3) (5) / まだ決まらないこと：(2) (4) (6)

香奈は「今日はまず、少し聞いて」と述べていますが、今後の助言をすべて拒んではいません。また、遅れには予定、機器、途中の質問など複数の要素があり、準備不足だけとすることはできません。

四 いま求めているものを読む

正答：ウ

少なくとも会話の初めには、昨日のことを聞いてもらう希望が明示されています。報告や次回案の必要は残っていますが、それを今すぐ完成させてほしいとは述べていません。

五 話されていない希望を決めない

解答例：香奈が、助言や次回案の検討をいつから望むかは、まだ決められない。

ほかに、「途中で退室した人の理由をどの程度確かめたいか」「明にどこまで一緒に考えてほしいか」なども成立します。本文に書かれていない希望を一つ挙げていけばよい問いです。

六 指摘の内容そのものを確かめる

(1) 事実に沿う指摘 (2) 事実に沿う指摘 (3) 根拠のない評価 (4) 根拠のない評価 (5) 改善案として成立

(1) (2) は記録から確認できます。(3) は質問が出た事実を、参加者への責任評価へ飛躍させています。(4) は一度の記録から適性全体を決めています。(5) は記録に沿う選択肢ですが、唯一の改善策ではありません。

七 正しさと時機を分ける

正答：ウ

予定に余白がなかったという指摘が妥当でも、香奈が「まず聞いてほしい」と述べた直後に、それだけを先に置くかは別の問題です。一方、時機を考えることは、指摘や責任を永遠に消すことでもありません。

八 原因を一つにしない

解答例：予定に余白がなかったほか、映写機の接続に八分かかり、説明の途中にも質問が出たから。

記録にある別の要素を一つ挙げれば成立します。複数の要素があっても、予定を組んだ側の検討事項がなくなるわけではありません。原因を増やすことと、責任を曖昧にすることは別です。

九 返答の順序を比べる

(1) A・D (2) C (3) B

AとDは、まず香奈の話を受け取っています。Cは参加者の気持ちを確認せず「気にしていない」と決め、安心させようとしています。Bには予定の組み方を見る着眼点がありますが、原因と改善案を最初に置いています。

十 必要な内容を消さない返答

正答：D

「昨日の流れを聞かせて」と今の希望を受け取り、「次回案の話も必要なら、いつ考えるか」と後の検討を残しています。Dが唯一の定型句なのではなく、二つの時間を分けている点が重要です。

十一 Bの指摘は、すべて誤りか

正答：ア

予定が六十分ぴったりだったため、余白に着目することには根拠があります。ただし、ほかの要素を落とし、「まず聞いてほしい」という希望より先に結論を置いています。内容への評価と、順序への評価を分けます。

十二 今・尋ねてから・後で・置けない

(1) ア (2) イ (3) ウ (4) エ (5) イ

(1)は話を受け取る言葉として今置けます。(2)(5)は香奈の希望や都合を尋ねます。(3)は必要な検討ですが、今すぐでなくてもよいものです。(4)は参加者全員の評価が分からず、そのままでは置けません。

十三 最初の返答を作る

解答例：準備した分、うまくいかなかった感じが残っているんだね。まず、昨日のことを聞かせて。途中で事実も一緒に整理した方がよければ、そうするよ。次回案のことは、いつ考えるかあとで決めよう。

受け取り、今話すことの確認、必要な検討を後へ残す言葉があれば成立します。相手が必ず落ちてく、納得する、といった結果を約束する必要はありません。

十四 時機が変わったことを読む

正答：イ

香奈は「今日は次回案を見てほしい」「何を変えたらいいと思う」と、意見を求めています。前日に早すぎたかもしれない指摘が、翌日には求められた助言として役立つことがあります。

十五 助言が役立つ場面

正答：イ

六十分ぴったりの予定という事実から余白を提案し、説明を縮めるか質問時間を分けるか、香奈が考えられる形にしています。アは方法を一つに決め、ウは適性へ飛躍し、エは必要な検討を消しています。

十六 必要な指摘を含む返答を書く

解答例：予定を足すと六十分ちょうどなので、機器の遅れや途中の質問を受け止める余白がなかったね。今回は、説明を五分縮めて質問時間を途中と最後に分ける方法が考えられる。機器確認を前日にする案と合わせて、どちらから次回案に入りたい？

確認できる事実、改善案、香奈が選べる余地があれば成立します。複数の原因を挙げてもよく、すべてを一度に直す必要もありません。

この回で見たこと 正論の内容と、それを置く順序は別に点検できます。今は待つ、尋ねてから言う、後で具体的に言うという選択は、必要な指摘を失わないためにも使えます。

第十八回 異なる意見を隣に置く

一 まず、二つの意見を受け取る

正答はありません。最初にどちらへ近さを感じたかを残す問いです。「まだ決められない」も、情報と判断の境目にとどまる有効な答えです。

二 共通する目的

正答：ア

水野さんは集中できる時間を、岡田さんは話し合える場所を重視していますが、どちらも多目的室を利用者が使いやすい場所にしたいと考えています。共通目的があっても、手段への賛成までは導けません。

三 事実と判断を分ける

事実：(1) (3) (5) / 意見・判断：(2) (4) (6)

席数、満席だった回数、寄せられた意見の件数は確認できます。どの利用者が重要か、どの規則にすべきか、何が唯一公平かは、その事実を踏まえて分かれる判断です。

四 重視する点の違い

解答例 水野さん：静かに集中できる時間が、前もって分かること。 岡田さん：夜に数人で会話できる場所を残すこと。

水野さんなら閲覧室の満席、岡田さんなら多目的室の交流目的を理由として加えても成立します。一方を「わがまま」「時代遅れ」などと評価する必要はありません。

五 相手の意見を短くまとめる

水野さんの例：閲覧室が満席になることが多いため、火曜夜の多目的室を静かに使う時間とし、集中できる場所を確保したいと提案している。

岡田さんの例：夜に話し合える別の場所が少ないため、会話できる利用を残し、声の大きさや席の分け方で調整したいと提案している。

どちらか一人について、提案と理由が本人の言葉に沿っていれば成立します。要約は、賛成の表明ではありません。

六 相手を消さず、自分の立場を置く

正答：B

水野さんの目的を「集中できる時間の確保」として受け取り、そのうえで、話し合い場所が減る懸念と、自分が支持する立場を述べています。相手を正確に扱っても、賛成する必要はありません。

七 言い方の問題を見分ける

A：イ C：ア D：ウ

Aは水野さんの理由を「気持ち」に狭め、「おかしい」と退けます。Cは理由を検討せず、中間案を合意のように置きます。Dは、水野さんが実際には述べていない「無視」という意図を決めています。

八 打ち消す言葉を書き換える

解答例：静かに集中できる場所を確保したいという必要は分かります。一方、多目的室には話し合いに使う役割もあるため、私は火曜夜にも会話できる時間を残したいです。

水野さんの必要を本人の主張に沿って示し、岡田さんの異なる立場を明確にしていれば成立します。必ず妥協案まで書く必要はなく、この表現によって水野さんが納得するとも限りません。

異論を整える目的は、反対を弱めることではありません。相手の主張を小さく作り直さず、自分がどこに賛成せず、何を重く見るかを読める形にすることです。

九 二つの意見を踏まえて書く

解答例：二人とも、多目的室を利用しやすい場所にしたい点は共通しています。会話を残す側が、夜に話し合える場所の少なさを重く見る理由も理解できます。それでも私は、火曜夜を静かな利用時間にする案を支持します。閲覧室が直近四回のうち三回満席で、集中する場所の不足が記録から見えるからです。ただし、会話を必要とする利用者がほかの曜日や場所を使えるのかは、決める前に確かめたいです。

共通目的、異なる側の重点、自分の立場と理由、残る問いが入っていれば成立します。岡田さんを支持する答えも同じ条件で成立します。

十 合意しないまま記録する

正答：イ

二つの提案、共通目的、異なる優先点、結論がまだ出ていないことを分けて記録しています。合意していないのに合意したと書いたり、違いがあるため理由を消したりしていません。

この回で見たこと 意見の違いは、どちらかを消すまで続ける勝負ではありません。一致する点、異なる点、確認できる事実、分かれる判断を同じ場に置けば、合意しないままでも次の検討へ進めます。

第三部の終わりに

言葉を人との間に置いても、相手の反応まで決めることはできません。

同じ内容でも、先に聞くか、尋ねてから言うか、今日は待つかで、届き方は変わります。

配慮しながら断ることも、理由を理解しながら反対することもできます。

二つの意見が並んだまま、すぐには結論が出ないこともあります。

その間は、言葉が足りなかったしるしとは限りません。

相手の言葉が残り、自分の言葉も消えず、もう一度考える余地がある。

その余地の中で、次は、自分の言葉を少しずつ育てていきます。

第四部の解答・考え方

第十九回 思い出は、どこから始まる？

一 まず、入口を受け取る

正答はありません。最初に引かれた言葉を残す問いです。後の比較によって、その受け取りを誤りとして消す必要はありません。

二 どこへ光が当たるか

(1) A (2) C (3) B (4) D

A は経験の概要、C は講師の言葉、B は土の見え方、D は手と器の変化を最初に置きます。これは続きの内容を固定する規則ではなく、読者が最初に見る範囲の違いです。

三 入口が決めること、決めないこと

正答：イ・エ

D は手の動きへ焦点を置きます。C から始めても、その言葉を受けた手の動きや完成した器へ移れます。A も文章の目的に合えば自然な入口です。B を選んでも、最後まで土だけを書く義務はありません。

四 要約から、一場面を選ぶ

どの情報も場面を作る細部として使えます。二つの選び方によって、文章の中心が変わります。たとえば「冷たい土＋下がった縁」なら不慣れな手の感覚へ、「湿らせた海綿＋ゆがんだ器」なら講師の助けを受けたあとの形へ近づけます。

五 一場面へ書き換える

解答例：回転台がゆっくり回るたび、器の縁は片側だけ低くなった。講師から渡された湿った海綿を当てると、冷たい土の表面が少しずつ滑らかになった。できた器は、最後までわずかにゆがんでいた。

複数の答えが成立します。一場面と、それを見せる細部が結びついていれば成立します。「楽しかった」を入れる答えも入れない答えも可能です。具体的にした結果、文章を長くする必要はありません。

六 異なる入口を二つ作る

解答例一：午後五時の鐘が鳴ったとき、手袋の親指には赤い汁がついていた。

最初に見せたいもの：作業を終える時刻と、手に残ったトマトの跡。

解答例二：「小さい方が甘いこともあります」と、隣の人が青いトマトを持ち上げた。

最初に見せたいもの：見た目だけでは分からないことを伝える一言。

ほかに、木箱、軒下へ運ぶ動き、赤と青の色から始める答えも成立します。会話から始めたから優れ、説明から始めたから弱い、という採点はしません。

七 二つを比べる

解答例：一を残す。鐘と手袋を置くと、収穫日全体の説明より、作業が終わる直前の一場面が中心になりそうだから。

二を選び、言葉を聞いた人の見方の変化へ中心を置く答えも成立します。比較した結果が、二つの入口の違いに触れていればよい問いです。

八 自分との距離を選んで試す

Bの解答例

拾うもの：初めて降りたバス停／折れ曲がった時刻表／遠ざかるバスの音。

書き出し一：予定より一つ手前の停留所で降りた、と気づいたのは、バスが角を曲がったあとだった。

書き出し二：透明板の中で、帰りの時刻表の端が三角に折れていた。

残したい方：二。帰り道を探す人の目を、まず時刻表へ向けられるから。

この回で見たこと 入口は、経験の価値を決める技法ではありません。何を最初に置き、何をまだ置かないかを選ぶことで、書きたい範囲を作ります。

第二十回 「好き」の理由は、あとから見える

一 最初に近いものを選ぶ

正答はありません。A は好みを直接述べ、B・C は好みを形作る要素を示しています。どれが伝わるかは、読み手が重く見るものによっても変わります。

二 何が見えたか

B：ア C：イ

Bは換気扇の音、流しの見え方、片づけの動作を置きます。Cは中断されずに作業できるという実用的な理由を置きます。感覚的な理由だけが好みの中身なのではありません。

三 「好き」を一度置かずに見る

解答例（ボールペン）：細い軸には浅い溝があり、三本の指が同じ場所へ収まる。替芯は近所の店で買え、インクが切れても軸を捨てずに済む。机から転がり落ちにくい六角形も使いやすい。

形、動き、手入れ、便利さ、過ごし方などが一つ以上見えれば成立します。珍しい比喩は必要ありません。

四 二つの具体性を比べる

正答：イ

文章一は色と音、文章二は軽さ、畳みやすさ、置き場所を示します。目的が好みの中身を伝えることなら、どちらも具体性として働きます。

五 「好き」を戻してみる

解答例：指の場所が自然に決まり、替芯をすぐ買えるところが、私は好きだ。

「好き」を戻すことで、前の描写をまとめることができます。使わずに短く結ぶ答えも成立します。

六 あとから見えた理由

解答例：書く前は持ちやすさだけだと思っていたが、替芯を買いやすいことも、長く使う理由になっていた。

「まだ分からない」も有効です。書けば必ず隠れた心理が見つかる、という課題ではありません。

第二十一回 借りてきた言葉、自分の言葉

一 標語の役割を読む

正答：イ

標語は、店で過ごす時間の印象を短く示します。営業時間や席数を伝える文ではありませんが、それは標語として役割がないという意味ではありません。

二 広く届く言葉と、判断する情報

正答：ア・イ・エ

出勤前に利用できるか判断するには、営業時間、受取時間、持ち帰りの可否が関係します。標語が作られた時期は、利用できるかを定める条件ではありません。

三 残してよい決まり文句

正答：ウ

広い印象を伝える言葉と、行動に必要な情報は、並べて置けます。決まり文句をすべて禁止することも、標語だけですべてを伝えようとするものではありません。

四 広く使える言葉の中身を確認する

正答：ア・エ

「人とのつながりを大切にする」「自分らしく成長していく」は、多くの場面に使えるため、この一文だけでは書き手が何をする人か見えにくい表現です。読書会への参加や質問の用意は、行動を具体的に示しています。

五 書き手に合う表現を選ぶ

正答：イ

与えられた三点を無理なく組み合わせ、話し手の実際の距離に合っています。アは「多く意見を伝える」と書き手の傾向を逆にし、ウは比喻で内容を大きくし、エは聞くことを自分の成長の手段へ置き換えています。イが正解なのは珍しくない表現だからではなく、経験と意図に合うからです。

六 決まり文句を残して具体化する

解答例：人とのつながりを大切にしたいと思い、月に一度、地域の読書会へ参加しています。私にとっては、たくさん話すことより、初参加の人の話を急がず聞き、質問を用意することが、その一つです。

七 言いたい範囲に近づける

正答：イ

紙の掲示を残すという提案と、掲示で予定を知る住民がいるという理由が読めます。ウはウェブをなくすところまで広げ、元の意見を越えています。

八 目的によって、残す言葉は変わる

(1) A (2) B

A は短く広く届く標語として、B は何を来年度も残すかを記録する文として働きます。同じ内容でも、目的によって必要な詳しさが変わります。

九 抽象語を使ってもよいとき

解答例：近くに具体的な提案や場面を置き、その言葉が何をまとめているかを読み手が確かめられるとき。

見出しやまとめとして広い言葉を使い、本文で中身を示す形も成立します。

十 合わない表現を直す

解答例：分からない点は、作業を進める前に早めに尋ねます。引き受けた作業は、確認した期限までに終わられるよう進めたいです。

本人が実際に心がけたい二点に合えば成立します。「挑戦」や「成長」を禁止したのではなく、今回は本人が大きすぎると感じたため動かしています。

十一 与えられた人の言葉を編集する

A の例：入口に段差がなく、修理前に費用の見込みを説明してもらえるので、安心して相談できる店だ。

B の例：平日の朝は席が空いている。調べ物の途中で二階の地図資料をすぐ確認できることが、私にとって図書館で過ごす時間を充実させている。

理由の例：A では「安心」を残した。段差がないことと費用の説明が、その中身を支えるから。「安心」「充実」を別の言葉へ直す答えも、経験や目的に近づいていれば成立します。

この回で見えたこと 共通の言葉は、考えるための足場でもあります。示したい中身に合うかを確かめ、必要なら具体化し、範囲を狭め、言い換えます。新しさではなく、合い方を見ます。

第二十二回 まだ分からないことを書く

一 最初に残ったもの

正答はありません。「文字のあった場所だけ白い」「戻りたいわけではない」「空の鞆へ手を入れる」など、最初に残ったものを記します。後の読解によって、最初の受け取りを消す必要はありません。

二 本文に書かれていること

正答：ア・ウ・エ

新館には段差がなく、書き手は前より楽だと感じ、旧館の文字は外されています。書き手は不便さへ戻りたいとは述べていません。また、旧館へ歩いた理由を返却口の音一つに決めていません。

三 同時に置かれた感覚

解答例：古い建物の不便さがなくなって楽になったという感じと、もう使わない入口や道順を少し惜しいと思う感じ。

「新館への安心と旧館への懐かしさ」なども、本文の範囲に沿っていれば成立します。相反する感じが並んでも、論理上の誤りではありません。

四 分かることと、まだ分からないこと

本文から分かる：古い図書館には段差や狭い通路があった／書き手が旧館を惜しいと感じた／新館の窓に空が映っていた。

まだ分からない：惜しいのが建物・道順・音のどれなのか／書き手が将来たどり着く結論。

本文が自ら「まだ分からない」としている範囲を、読者が本心として一つに決めることはできません。

五 言い切れる範囲

正答：イ

書き手は新館の使いやすさを明確に述べています。そのうえで、何を惜しんでいるかは複数の可能性として残しています。分からない部分があっても、本文から確認できる事実や暫定的な考えまで消えるわけではありません。

六 結びが確定するもの

A② B① C③ D④

Aは「変化を受け入れることが大切」という教訓を確定します。Bは道順を惜しむ可能性を「かもしれない」と示し、Cは未確定の範囲を明示し、Dは説明ではなく場面へ戻ります。

七 本文に沿う結びを比べる

正答：ア・ウ

B は本文にある候補の一つを暫定的に選びます。D は本文の具体物へ戻るため、何も述べずに切ったのとは異なります。C も、本文で考えた範囲を示しているの、考えることから逃げたとは言えません。どの形が常に優れているとも決まりません。

八 安易に加わった結論を外す

正答：イ

付け足した段落は、本文にない「変化への恐れ」「過去を手放す」「成長」を確定します。前向きな内容だから誤りなのではなく、本文で確かめたことを越えて一つの成長物語へまとめている点が問題です。

九 結びを二つ作る

(1) の例：私は古い建物より、そこへ向かうときの身体の動きを惜しんでいるのかもしれない。

(2) の例：信号が点滅し始め、私は空の鞆から手を抜いた。窓に映った雲が、横断歩道の向こうへ流れていた。

どちらも一例です。(1) は考えを暫定的に置き、(2) は具体的な場面へ戻ります。「今は分からない」と範囲を明示する第三の形も成立します。

十 何を残したか

解答例：(1) を選んだ。身体の動きを惜しむ可能性は示したが、建物や返却口の音も関係しているかどうかは確定しなかった。

自分の結びが確定したことと、残したことを区別できていれば成立します。

十一 確かなことと未確定のこと

正答：ア・ウ

原稿が届いた時刻と入稿が延びたことは記録から確かめられます。美奈の評価や遅れた理由は、この記録だけでは確定しません。

十二 分からない範囲を残す

正答：B

B は、理由を未確定のまま残しながら、締切を過ぎたことと日程への影響を明示し、次の確認と相談を置きます。理由が分からないことを、起きた事実まで曖昧にするためには使っていません。

十三 複雑さを逃げ道にしない

A の例：理由が分からないことから、締切や影響を確かめなくてよいという結論へ飛んでいる。人の気持ちの複雑さは、必要な確認をなくさない。

C の例：理由を話していないという事実から、共同作業を大切にしていないという意図や評価を決めつけている。

複数の要因を考えると、責任を消すことは別です。また、責任を確かめることと、人物全体を評価することも別です。

十四 距離を選んで書く

どの経路を選んでも成立します。自分の経験の深さや、書いた分量で優劣をつけません。

A の例：文字の跡を惜しいと思ったのか、そこに看板があった時間を惜しいと思ったのかは分からない。横断歩道を戻ると、新館の自動扉が一度だけ開いた。

B の例：古い椅子を別の部屋へ移して、机の周りは広くなった。それでも立ち上がるたび、椅子があった方へ身体を少しよける。広がってよかったと思うのに、その動きだけはまだ残っている。

C の例：軽くなった鞆の底に、薄い灰色の重さが残る。遠くなったはずの場所だけが、指一本分近い。

D を選んだ場合は、印を付けるだけで完了です。苦しくなった課題を通り過ぎること、教材との距離を自分で選ぶことです。

十五 結び方を選ぶ

複数の答えが成立します。アなら本文から十分に言える考えを範囲を限って置き、イなら何が未確定かを示し、ウなら前に置いた物や動きへ戻します。

成立の条件は、選んだ結びが前の文とつながり、何を確定し、何を残したかを説明できることです。曖昧に終えるだけで深くなるのでも、結論を示せば必ず明快になるのでもありません。

この回で見たこと 迷いや相反する感じを残すときも、本文から分かることは書けます。まだ分からない範囲を確かめることは、事実や必要な責任をぼかすこととは異なります。

第二十三回 削ると見えるもの

一・二 重なりと、中心を支える具体性

一 正答：ア。「腰を下ろして／座った」は動作が重なり、「古くて年月を感じさせる／長い年月のために古び」も古さを重ねます。片方を残せば、中心の意味は保ちやすい箇所です。

二 正答：イ。右端の光を中心にするなら、「淡く滑らかに光っていた」が状態を直接支えます。午後や風も、目的によっては場面の調子を作ります。

三・四 削り方と目的を比べる

三 正答：A・B。A は周囲とボールの音を残し、B は右端の光と、理由を説明しきれない調子へ焦点を絞ります。C は短い一方、光の質や書き手との関係まで失っています。

四 正答：ア。A と B はどちらも成立しますが、残す範囲と読後の印象が違います。短さだけで優劣は決まりません。

五・六 自分で削り、残した理由を確かめる

五の解答例：午後の公園で、古いベンチに腰を下ろした。右端だけは、何度も手が触れたのか、淡く滑らかに光っていた。私はなぜか、その小さな光を残したいと思った。重複を減らし、中心を支える具体性が残れば成立します。六の例：「淡く滑らかに光っていた」を残した。右端の手触りと、目を止めた理由を支えるから。ボールや木の葉を残す答えも可能です。

七 削ると変わるもの

正答：イ

「なぜか」は、理由を説明しきれない調子を残します。削っても事実は変わりませんが、「残したい」という判断が少し強く見える場合があります。

第二十四回 自分の言葉で、小さく結ぶ

一 題材を選ぶ

正答はありません。A～E では自分に無理のない題材を、F では与えられた架空の人物を選べます。個人的な経験の深さは、文章の成立条件ではありません。

二～四 言葉を集め、残す範囲を決める

A「長く使っている物」の例：場面＝夕食後に台所ばさみを洗う／物＝オレンジ色の柄、黒ずんだねじ／動き＝刃を外して布巾へ置く／説明＝十二年使っている、片手で扱える／まだ決めない＝いつ買い替えるか。

残したいもの：使い続ける理由は、深い思い出だけでなく、毎日の動きに合うことにもある。今回は入れないもの：購入した店や値段。

五 書き出しを二つ試す

例一：オレンジ色の柄の台所ばさみを、十二年ほど使っている。

例二：洗った二枚の刃を、布巾の上で交差させて置く。

一は物の説明へ、二は夕食後の一場面へ入りやすい形です。どちらも成立します。

六 入口を選ぶ

解答例：一を選ぶ。使い続けた年数と物を最初に示し、そのあと具体的な使い方へ移りたいから。

「印象的だから」だけでなく、最初に見せたいものとの関係が書かれていれば成立します。

七〜九 見通しを置き、初稿を書く

中ほどの例：切るもの、洗い方、買い替えを考えた場面。結びの例：洗った刃を置く今朝の動きへ戻る。見通しは、書きながら変えてかまいません。

原稿欄は最大六百字です。四百字から六百字の範囲で一度最後まで書けば、初稿として成立します。次の二例は、題材と結び方の異なる完成文章です。どちらか一方だけを模範とはしません。

確認の中心は、題材が見えること、具体的な要素が中心と結びつくこと、どこで結ぶかを選んだこと、そして一か所以上を選び直したことです。感動や独創性の強さではありません。

完成文章例一 長く使っている物

台所ばさみ

オレンジ色の柄の台所ばさみを、十二年ほど使っている。刃をつなぐねじの周りは黒ずみ、柄にも細かい傷がある。特別よく切れる品ではない。それでも、海苔の袋を開け、青ねぎを鍋の上で切り、宅配の箱のひもを外すところまで、台所で必要な動きのほとんどをこれ一本で済ませてきた。

このはさみは、左右の刃を外して洗える。鶏肉を切ったあとも継ぎ目に水が残りにくく、片手で引き出しから取り出せる重さもよい。夕食の支度で鍋が沸き始めてから、別の道具を探さなくてよいことが、私には大きい。

先月、開くたびに少し引っかかるようになった。買い替えるつもりで店へ行き、軽いものを二本試したが、その日は何も買わなかった。帰宅してねじの周りを洗い、食品用の油をほんの少し差すと、乾いた音が戻った。思い出が深いから手放せない、というほどではない。安全に使えなくなれば替えると思う。

ただ、今朝も洗った二枚の刃を布巾の上で交差させ、柄を流しの方へ向けて置いた。明日の朝には乾いている。

(本文 418 字)

この例は、物への強い思い出ではなく、洗いやすさ、重さ、台所での動きという実用的な理由を中心にしています。買い替える可能性も残し、今朝の置き方へ戻って結んでいます。

推敲の例 抽象的なまとめを、実際の動きへ近づける

初稿の一部：長く使っていて愛着があり、何を切るにも便利なので、このはさみが好きだ。

推敲後の一部：海苔の袋を開け、青ねぎを鍋の上で切り、宅配の箱のひもを外すところまで、台所で必要な動きのほとんどをこれ一本で済ませてきた。

変えた理由：「愛着」「便利」の中身を、この書き手が実際にする三つの動きで示したかったためです。「愛着」という言葉が悪いから削ったのではなく、今回は動きを残す方を選びました。

完成文章例二 架空の人物と場面

七分進んだ時計

水曜日の六時十三分、紗江は商店街の時計店の前に着いた。店頭の丸時計は六時二十分を指している。いつも七分進んでいるので、バスが来たわけではないと分かる。四年間、毎週同じようにその差を見てきた。

ガラス戸には「四十七年間ありがとうございました」と書いた紙が貼られ、シャッターは半分まで下りていた。紗江がこの店に入ったのは一度だけだ。止まった腕時計を渡すと、店主は電池を替え、「これなら、まだしばらく使えます」と言った。代金を払い、すぐ店を出た。それ以上の話はしていない。

六時十八分ごろ、店主が踏み台を出し、丸時計を壁から外した。紗江は声をかけようかと思ったが、何を言うのかは浮かばなかった。閉店が惜しいのか、バスを待つ目印がなくなるのが困るのか、自分でも決められない。スマートフォンでも時刻は分かるし、腕時計も動いている。

通りの角からブレーキの音がした。紗江は外された丸時計ではなく、自分の腕時計を見た。六時二十分だった。バスへ乗る前に一度振り返ると、時計のなくなった壁は、思っていたより白かった。

(本文 446 字)

この例は、教材から与えられた架空の場面だけで書いています。紗江の気持ちを「寂しい」と一語へ決めず、時計との距離、時刻、声をかけなかった動きを置き、白い壁へ戻って結んでいます。

推敲の例 本文にない教訓を外し、未確定の範囲を残す

初稿の一部：時計店が閉まり、紗江は寂しかった。しかし、変化を受け入れて前を向こうと思った。

推敲後の一部：閉店が惜しいのか、バスを待つ目印がなくなるのが困るのか、自分でも決められない。

変えた理由：与えられた場面からは、寂しさや成長の決意を一つに断定できません。分からない範囲を示すことで、何も述べずに逃げるのではなく、二つの可能性を本文へ残しました。

十 読み返して、残す場所と動かす場所を選ぶ

正答はありません。文章の中心を支える箇所を一つ残し、重複、広すぎるまとめ、足りない前提、順序の違和感などから一つ動かす場所を選びます。直す箇所が多いほどよいわけではありません。

十一 一か所以上を推敲する

削る、足す、言い換える、順序を変えるのどれでも成立します。推敲後に文章が派手になる必要はありません。意味、焦点、調子のどれを動かしたかが自分で分かれば、一つの選び直しになっています。

十二 完成を確かめる

単一の採点基準で文章の優劣を決めません。次の観点は、完成文章例にも異なる形で表れています。

確認する観点	例一	例二
題材が見える	台所ばさみ	閉店する時計店
中心を支える具体	切る・洗う・置く	七分差・丸時計・白い壁
抽象語の中身	便利さを動きで示す	惜しさを二つの可能性で示す
結び	朝まで乾く場面	時計のない壁
推敲	愛着・便利を具体化	決めつけた感情と教訓を外す

字数確認：完成文章例一は 418 字、完成文章例二は 446 字です。いずれも指定の四百字から六百字に収まっています。

別の文章では、抽象的な表現をまとめとして残すことも、結論を明示して終えることもできます。成立の条件は、それまでに置いた場面や考えと結びつき、書き手が何を残したかを読み取れることです。

この回で見たこと 完成文章は、題材、距離、書き出し、結びの違いによって多くの形を取ります。推敲は誤答を正解へ直す作業だけではなく、何を残し、何を動かすかを選び直す作業です。

第四部の終わりに

言葉を選び直せる場所

ここまで、二十四の場面で、言葉を読み、考え、書いてきました。何気なく使う一語に立ち止まり、出来事と受け取りをほどこき、相手との間へ置く順序を考え、最後に短い文章を一つ結びました。

書き終えた文章は、自分の言葉の完成品ではありません。同じ経験でも、明日なら別の場面から始めるかもしれません。相手や目的が変われば、詳しく話すことも、短く答えることもあります。残した一文を、あとから動かしたくなることもあります。

言葉にしたことで、初めて見える輪郭があります。一方で、まだ名前のつかない感じ、いくつかの言葉が並んだままの考え、今は書かずに置いておくものも残ります。どちらかだけを、正しい終わり方にする必要はありません。

自分の言葉とは、特別な言い回しを手に入れるのではなく、そのときの経験、相手、時機に照らして、無理のない表現を選ぶことです。必要なら、その選択はもう一度やり直せます。

これから言葉に出会ったときも、すぐに決めずに眺め、必要なだけ分け、置く場所を考え、残したい形へ育てていく。その途中には、言葉になったものと、まだならないものの両方があってよいのだと思います。

おわりに

二十四回の稽古を通して行ってきたのは、言葉をきれいに整えることだけではありません。何気ない一語に立ち止まり、出来事と受け取りの間を見て、相手との間へ置く順序を考え、最後に短い文章を結びました。

そこで見つけた区別は、いつも同じように使わなくてもかまいません。急いで確かめたいときもあれば、いくつかの見方を並べたまま待つときもあります。詳しく話すことが必要な場面も、短く伝える方がよい場面もあります。

書かなかった空欄や、まだ決められなかった答えも、この一冊の外へ持ち出せます。あとから別の言葉が見つかったときは、その場所へ戻り、書き足したり、選び直したりしてください。

言葉になったものと、まだならないものの両方を残しながら、自分・他者・世界との付き合い方を少しずつ練り上げていく。そのための一冊として、このドリルが静かに役立てば幸いです。

